

兵庫県立健康科学研究所業務年報

令和7年度（2025年度）

兵庫県立健康科学研究所

はじめに

兵庫県立健康科学研究所では、県民の公衆衛生に関する調査研究や試験分析を日々行い、感染症、食品、医薬品や飲料水などに関する科学的・技術的根拠を提供し、感染症をはじめとする健康に関する情報発信を積極的に行ってています。

新型コロナウイルス感染症のパンデミックから5年、5類感染症移行から2年が経過する中、様々な検証や検討を経て、次なる新興感染症への対策強化が本格化しています。国レベルでは国立感染症研究所と国立研究開発法人国立国際医療研究センターが統合し、令和7年4月に国立健康危機管理研究機構（J I H S : Japan Institute for Health Security）が発足しました。本県においても、同年4月に「兵庫県感染症対策センター（ひょうごC I C : Centers for Infectious diseases prevention and Control）」が当研究所に設置され、感染症専門家を配置し専門的知見に基づいた感染症対策を実施することになりました。

今年度は、第7期中期事業計画（令和6年度～令和10年度）及び健康危機対処計画（感染症）の各2年目の年にあたります。地域保健対策の拠点としての機能を發揮できる研究所を目指し、有事における試験検査体制の確保、平時における人材の育成や関係機関との連携に重点を置いた取組みを職員一丸となってより一層推進してまいります。

この度、令和6年度における当研究所の業務・業績を取りまとめましたので、関係の皆様にご高覧いただき、ご指導・ご鞭撻を賜れば幸いに存じます。

令和7年11月

兵庫県立健康科学研究所
所長 今井 雅尚

目 次

はじめに

1 沿革	1
------	---

2 研究所の概要

2.1 職員数	1
2.2 施設・設備	1
2.3 組織及び分掌事務	2
2.4 職員一覧	3
2.5 職員の異動	4
2.6 試験研究主要備品	5
2.7 令和6年度決算	7

3 部の概要

3.1 危機管理部	9
3.2 感染症部	13
3.3 健康科学部	21

4 試験検査の概要

4.1 行政検査件数（感染症部）	27
4.2 行政検査件数（健康科学部）	28
4.3 一般依頼検査項目別手数料	29

5 調査研究課題一覧表	30
-------------	----

6 試験検査項目等一覧表	31
--------------	----

7 普及啓発活動一覧表

7.1 研究・調査発表会	33
7.2 体験型科学教室「夏だ！サイエンス DE チャレンジ」	33
7.3 「サマー・チャレンジ」夏休み自宅科学教室	33

7.4	業務紹介パネル展示	33
7.5	兵庫県感染症健康危機対応研修会	33
7.6	県職員の研修指導	34
7.7	県職員以外の研修指導	34
7.8	研修会での講演等	36
7.9	施設見学等	38
7.10	委員会の委員等の就任	39
7.11	非常勤講師・客員研究員等の就任	40
8	学会発表一覧表	41
9	論文等発表抄録	
9.1	他誌	42
9.2	兵庫県立健康科学研究所研究報告第6号 令和6年度（2024年度）	43
10	検査結果等	
10.1.1	全数把握対象疾病の疾病別年間累積患者数	44
10.1.2	全数把握対象疾病の疾病別週別患者数	45
10.2	週報対象疾病の疾病別週別患者数	46
10.3	月報対象疾病の疾病別月別患者数	47
10.4	結核菌の同定試験	47
10.5	侵襲性肺炎球菌感染症に係る依頼検査	48
10.6	腸管出血性大腸菌感染症に係る依頼検査	48
10.7	細菌による食中毒（疑）事例の感染源、感染経路調査	49
10.8	劇症型溶血性レンサ球菌感染症に係る依頼検査	49
10.9	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症に係る依頼検査	50
10.10	他の細菌の依頼検査	51
10.11	クドアに係る依頼検査	51
10.12	インフルエンザウイルスの検出状況	51
10.13	豚日本脳炎ウイルス抗体保有状況	52
10.14	蚊媒介感染症の検査	52
10.15	ダニ媒介感染症の検査	52
10.16	HIVの検査	52

10.17 集団嘔吐下痢症からのノロウイルス等の検出状況	53
10.18 麻しん及び風しんウイルスの検出状況	54
10.19.1 感染症発生動向調査における月別病原体検査件数 (インフルエンザの検体を除く)	55
10.19.2 感染症発生動向調査における月別疾患別病原体検査件数 (インフルエンザの検体を除く)	55
10.20 農産物の残留農薬試験結果	56
10.21 国産食肉の残留農薬試験結果	59
10.22 畜水産食品等の残留医薬品試験結果（輸入畜水産食品）	61
10.23 国産食肉の残留医薬品試験結果	63
10.24 輸入かんきつ類の防かび剤試験結果	65
10.25 輸入食品における指定外添加物等の試験結果	65
10.26 米の成分規格試験結果	66
10.27 遺伝子組換え食品の試験結果	66
10.28 アレルゲン（特定原材料）を含む食品の試験結果	67
10.29 器具・容器包装の規格試験結果	67
10.30 貝毒検査結果	67
10.31 家庭用品（繊維製品）の試買試験結果	68
10.32 淨水の検査結果の概要	68
10.33 水道原水の検査結果の概要	69
10.34 水道水質試験の検査項目	70
10.35 水質管理目標設定項目の農薬類	71
10.36 水質管理目標設定項目の農薬類	72
10.37 温泉水の検査項目と試験結果	73

1 沿革

昭和 23 年 8 月 16 日 兵庫県衛生研究所規程（兵庫県規則第 78 号）が制定され、神戸市生田区下山手通 4 丁目 57 において兵庫県衛生研究所として発足

昭和 24 年 5 月 17 日 機構拡充により、神戸市長田区大谷町 2 丁目 13 に移転

昭和 43 年 4 月 20 日 保健衛生センター新築（兵庫区荒田町 2 丁目 1 番 29 号）に併せて移転

昭和 62 年 4 月 1 日 県立衛生研究所に改称

平成 14 年 4 月 1 日 組織改正により、県立衛生研究所（兵庫区）と県立公害研究所（須磨区）が統合され、県立健康環境科学研究所（兵庫庁舎、須磨庁舎）となる。

平成 21 年 4 月 1 日 組織改正により、県立健康環境科学研究所の健康部門（兵庫区）と県立生活科学総合センター（中央区）が再編統合され、県立健康生活科学研究所（健康科学研究センター、生活科学総合センター）となる。

平成 30 年 4 月 1 日 組織改正により、生活科学総合センターを廃止するとともに、名称を兵庫県立健康科学研究所に改め、加古川市神野町神野 1819 番地の 14 に移転

2 研究所の概要

2.1 職員数

令和 7 年 4 月 1 日現在

区分	事務職	技術職			計
		医師職	研究職	その他技術職	
危機管理部	4	1	0	3	8
感染症部	0	0	10	1	11
健康科学部	0	0	8(1)	2(1)	10 (2)
小計	4	1	18(1)	6(1)	29 (2)

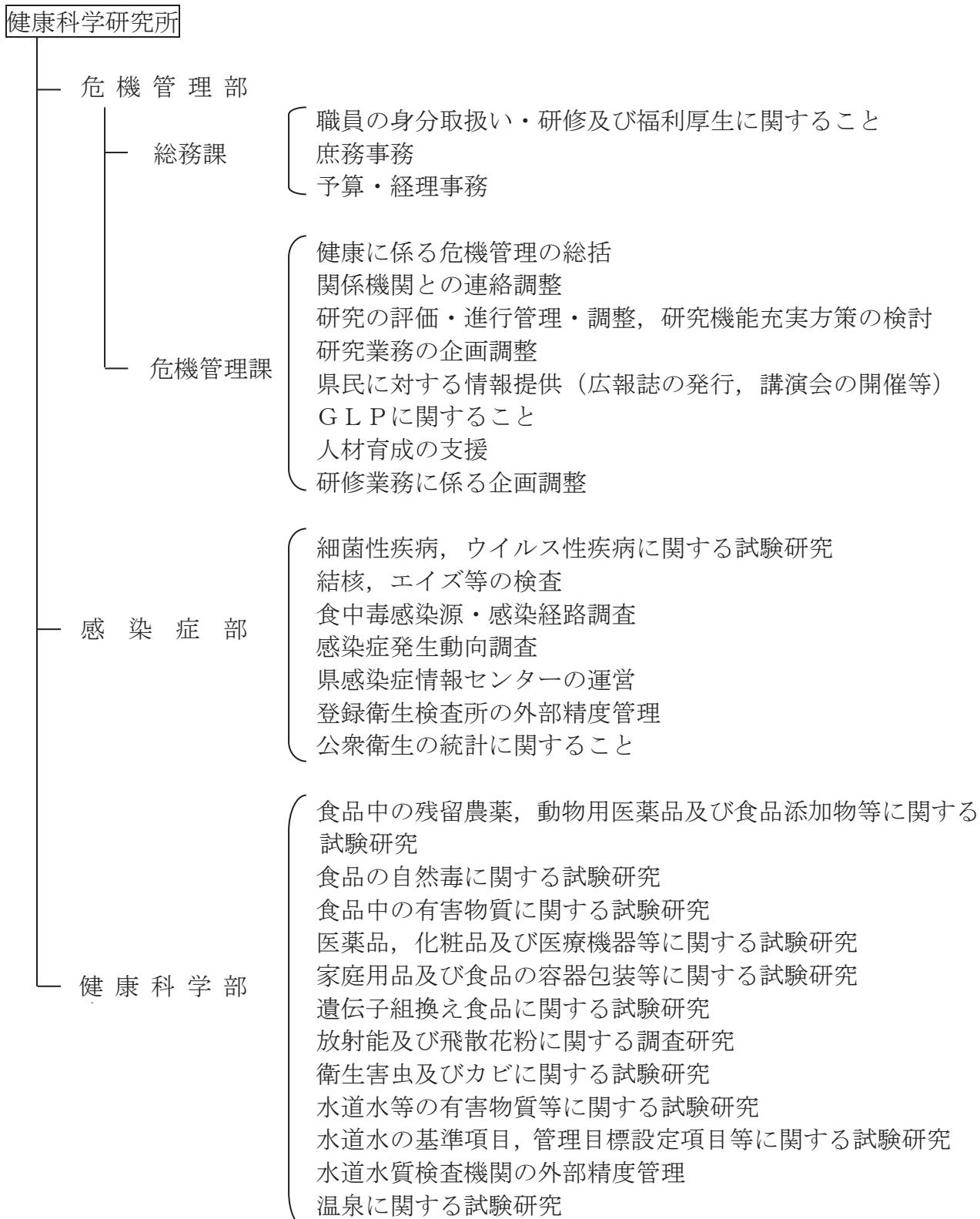
※ 所長及び副研究所長（行政職）は危機管理部に記載した。

注) () 外書き：再任用職員

2.2 施設・設備

- (1) 敷地面積 8,749.62 m² (造成分) (公有財産面積 28,206.08 m²)
- (2) 建築面積 2,134.03 m² 延べ面積 5,754.92 m²
 - 延べ面積内訳 本館棟（鉄筋コンクリート造 4 階建）5,718.84 m²
 - 車庫棟（補強コンクリートブロック造 1 階建）36.08 m²
- (3) 特殊研究設備 高度安全実験室 (P3), クリーンルーム, 核種実験室

2.3 組織及び分掌事務



2.4 職員一覧

令和7年4月1日現在

部名	職名	氏名
	所長 副研究所長	今井 雅尚 市村 高子
危機管理部	部長 総務課長 課長補佐 〃 主任	白石 豊 (白石危機管理部長兼務) 山本 博一 宮下 尚典 山本 基行
	危機管理課長 課長補佐	小林 博之 今井 史
	部長 課長(微生物・疫学担当) 衛生検査専門員 主任研究員 〃 〃 〃 研究員 〃 〃 〃	押部 智宏 荻 美貴 村上 修子 齋藤 悅子 庄田 徹 辻田 久美子 島本 章義 池端 真帆 楠 志保 川嶋 愛理英 金城 龍也
	部長 課長(理化学担当) 上席研究員 課長補佐 〃 主任研究員 〃 主任	藤田 裕代 吉岡 直樹 矢野 美穂 足立 綾 小島 知位子 赤松 成基 滝本 典彦 松村 益代 後藤 操 泉村 康人 安井 麻姫 森口 奈名子
	研究員 〃 〃 〃	

2.5 職員の異動

退職（令和7年3月31日）

副研究所長
名倉 嗣朗
感染症部長
大岡 徹彦

転出（令和7年度）

危機管理部 主査
雜賀 祥美
感染症部 主任研究員
荻田 堅一
健康科学部 主任研究員
北本 寛明
洲本健康福祉事務所へ
動物愛護センターへ
動物愛護センターへ

転入（令和7年度）

副研究所長
市村 高子
感染症部 研究員
楠 志保
感染症部 研究員
金城 竜也
健康科学部 課長補佐
足立 綾
健康科学部 主任研究員
滝本 典彦
県立歴史博物館から
豊岡健康福祉事務所から
新規採用
こども病院から
加古川健康福祉事務所から

内部異動（令和7年度）

危機管理部 課長補佐
今井 史
健康科学部から

再任用（令和7年度）

健康科学部 主任
松村 益代
健康科学部 研究員
後藤 操

2.6 試験研究主要備品

機器名	型式	数量	取得年月	価格(千円)
超遠心機	日立 CP-70	1	H2. 3	8,991
原子吸光分光光度計	パーキンエルマー SIMAA-6000	1	H7. 6	14,461
超ミクロトーム	ライヘルト ULTRACUT-R	1	H7. 7	5,613
リアルタイム PCR	ABI PRISM 7900HT-4	1	H14. 2	15,067
キャピラリー電気泳動装置	大塚電子 CAPI-3300	1	H15. 3	6,562
蛍光微分干渉顕微鏡及びデジタル装置	オリンパス BX61-34-FLD-1	1	H16. 3	6,216
誘導結合プラズマ質量分析計	パーキンエルマー ELAN DRC-E	1	H17. 3	16,989
ゲル浸透クロマトグラフ	ジーエルサイエンス G-Prep8100	1	H18. 6	5,880
液体クロマトグラフ 飛行時間型質量分析計	Agilent6210	1	H18. 6	39,900
窒素燐検出器及び炎光光度型検出器付き ガスクロマトグラフ	Agilent7890ANPD	1	H20. 8	7,630
高速液体クロマトグラフ／質量分析装置	ウォーターズ UPLC-TQD	1	H20. 8	23,835
リアルタイム PCR	PE バイオシステムズ ABI PRISM 7900HT-4	1	H21. 8	14,931
DNA シーケンサー	ライフテクノロジー・ジャパン ABI3500	1	H22. 1	17,503
高速液体クロマトグラフ	島津製作所 Prominence UFCXR	1	H22. 2	9,292
ECD ガスクロマトグラフ	島津製作所 GC-2010Plus	1	H22. 2	6,373
イオンクロマトグラフ	日本ダイオネクス ICS-2100	1	H22. 3	6,646
誘導結合プラズマ発光分光分析装置	パーキンエルマー OPTIMA 7300DV	1	H22. 3	12,285
蛍光X線分析装置	エスアイアケノテクノロジー SEA1200VX	1	H22. 3	9,975
キャピラリー電気泳動・質量分析装置	アズレントテクノロジー 7100B, 6410BA	1	H23. 3	28,087

機器名	型式	数量	取得年月	価格(千円)
ゲルマニウム半導体核種分析装置	キャンベラジャパン GC3520	1	H23. 10	19, 110
高速液体クロマトグラフ	島津製作所 Nexera XR	1	H30. 3	8, 640
トリプル四重極型 高速液体クロマトグラフ質量分析計	ウォーターズ Xevo TQ-XS	2	H30. 3	80, 676
高速液体クロマトグラフ 一四重極一飛行時間型質量分析計	ウォーターズ Xevo G2-XS UPLC/Q-Tof	1	H30. 3	33, 696
トリプル四重極リニアイオントラップ 型液体クロマトグラフ質量分析装置	エービー・サイエックス SCIEX QTRAP 4500	1	H30. 3	41, 191
マトリックス支援レーザー脱離イオン化飛行時間型質量分析計	ブルカ・ダルニクス MALDI-TOF MS	1	H30. 3	31, 212
共焦点レーザー顕微鏡	オリンパス FV3000RS	1	H30. 3	30, 672
透過型電子顕微鏡	日立ハイテクノロジーズ HT7800 システム	1	H30. 3	44, 172
超遠心機	日立工機 himac CP80NX	1	H30. 3	11, 491
ベンチトップ型次世代シーケンサー	イルミ Miseq システム	1	H30. 3	21, 146
リアルタイム PCR	ライフテクノロジーズ 12K/QS-W05	1	H30. 3	11, 955
DNA シーケンサー	ライフテクノロジーズ ABI3500XL	1	H30. 3	24, 494
トリプル四重極型ガスクロマトグラフ 質量分析計	アジレントテクノロジー 7000D	1	H30. 4	17, 892
ページ&トラップ濃縮導入装置及び 四重極型ガスクロマトグラフ質量分析 計(揮発性有機化合物: VOC 検査)	GL サイエンス Aqua PT6000 アジレントテクノロジー 5977B	1	H30. 4	16, 201
ページ&トラップ濃縮導入装置及び 四重極型ガスクロマトグラフ質量分析 計(かび臭物質検査)	GL サイエンス Aqua PT6000 アジレントテクノロジー 5977B	1	H30. 4	16, 198
四重極型ガスクロマトグラフ質量分析計	アジレントテクノロジー 5977B	1	H30. 4	8, 802
臭素酸・シアン・アニオン分析システム	島津製作所 Prominence	1	H30. 4	19, 202
リアルタイム PCR システム	サーモフィッシュ・サイエンティフィック QuantStudio 5	1	R2. 5	7, 222
自動分注ロボットを用いた遺伝子検査 システム	ベックマン・コルター Biomek i5, i7, 4000 サーモフィッシュ・サイエンティフィック QuantStudio 7 Pro	1	R2. 10	99, 880
リアルタイム PCR 一式	ライフテクノロジーズ Applied Biosystems 7500	1	R3. 2	7, 465

(注) 購入価格 500 万円以上の備品を記載

2.7 令和6年度決算

2.7.1 歳入

科 目	調定額 (円)	収入済額 (円)	収入未済額 (円)
(款) 使用料及び手数料	12,505,330	12,505,330	0
(項) 使用料	14,250	14,250	0
(目) 衛生使用料	14,250	14,250	0
(節) 財産使用料	14,250	14,250	0
(項) 手数料	12,491,080	12,491,080	0
(目) 衛生手数料	12,491,080	12,491,080	0
(節) 健康科学研究所手数料	12,491,080	12,491,080	0
(款) 諸収入	150,766	150,766	0
(項) 雜 入	150,766	150,766	0
(目) 違約金及び延納利息	0	0	0
(節) 違約金	0	0	0
(目) 雜 入	150,766	150,766	0
(節) 損害賠償金債権	0	0	0
(節) 臨床研修医研修受入収入	0	0	0
(節) 雜 入	150,766	150,766	0
計	12,656,096	12,656,096	0

2.7.2 手数料の内訳

項 目	件 数	金 額
水 質 検 查 料	1,036 件	6,255,680 円
温 泉 分 析 試 験 料	16	1,294,000
理 化 学 的 検 查 料	22	426,700
生 物 学 的 検 查 料	268	4,514,700
	1,342	12,491,080

2.7.3 歳出

(単位：円)

科 目	予算令達額	決 算 額					
		人件費	旅 費	需用費	備品費	その他	計
健康科学研究所職員費	255,684,826	255,684,826					255,684,826
健康科学研究所職員費	1,956,000	1,954,052					1,954,052
健康科学研究所運営及び調査研究費	73,377,000	21,932,463	937,882	31,381,275	357,500	18,158,755	72,767,875
小計	331,017,826	279,571,341	937,882	31,381,275	357,500	18,158,755	330,406,753
保健衛生指導費	380,000		233,220	73,000		65,000	371,220
食品衛生指導費	13,901,000		36,340	8,994,551	946,000	3,851,947	13,828,838
水道法施行経費	303,000		2,580	291,871			294,451
大気汚染対策費	5,814,000	4,018,713	96,766	1,039,652	385,000	265,804	5,805,935
健康福祉事務所運営費	369,000			348,942		19,139	368,081
薬機法等施行経費	10,705,000		63,060	5,599,641		5,033,952	10,696,653
水産環境保全対策費	750,000			750,000			750,000
感染症・ハンセン病等対策費	15,277,000	2,641,001	63,003	10,476,377		1,990,534	15,170,915
行政機関からの依頼経費小計	47,499,000	6,659,714	494,969	27,574,034	1,331,000	11,226,376	47,286,093
合計	378,516,826	286,231,055	1,432,851	58,955,309	1,688,500	29,385,131	377,692,846

※「健康科学研究所職員費」は歳出事項の総額

3 部の概要

3.1 危機管理部

危機管理部では、健康に係る危機管理の総括及び連絡調整を担っており、関係機関との連絡調整、検査機器の充実、オンライン研修による最新情報の共有等所内の環境整備を行った。

危機管理への対応及び連絡調整を適切に行うため、地方衛生研究所全国協議会近畿支部が主催する健康危機事象模擬訓練に参加し、初動対応等の点検を行った。

また、従来から関係機関からの依頼により行っている地域保健関係従事者、健康福祉事務所（保健所）の職員等を対象とした研修を実施し、人材の育成、知識・技術の向上を図った。

GLP 信頼性確保部門の業務としては、食品衛生検査施設である当研究所（2 研究部）、健康福祉事務所（5 か所）に対し、内部点検を実施し、病原体等検査の業務を行う当研究所（1 研究部）、健康福祉事務所（5 か所）に対し、内部監査を実施した。

研究支援・企画調整業務としては、社会情勢の変化や県民ニーズ等を踏まえた効果的、効率的な調査研究を進めるため、研究課題等評価調整会議で研究課題の内部評価を実施したほか、各種外部資金の積極的な獲得に向けて働きかけを行った。

情報発信・提供としては、研究報告、業務年報及び広報誌の発行並びにホームページの随時更新等により、県民及び関係機関等への情報提供を積極的に行った。

また、令和 6 年度は、体験型科学教室「夏だ！サイエンス DE チャレンジ」及びサマーチャレンジ「夏休み自宅科学教室」を開催し、地域に開かれた研究所としての取組を進めた。

3.1.1 健康危機管理

（1）健康危機管理への対応

健康危機への対応訓練として、10 月 24 日（木）に地方衛生研究所全国協議会近畿支部が実施した、健康被害事例を想定し原因物質を究明するための健康

危機事象模擬訓練に参加し、研究所の危機管理体制に基づく初動・検査対応状況を確認した。

（2）職員を対象とした研修

最新の情報を得るべく、Web 形式による研修、研究会に積極的に参加できる環境を整え、職員の資質向上に努めた。

また、研究関係職員（転入者）の研究倫理教育のため、日本学術振興会の研究倫理 e ラーニングを受講できるようにしたほか、病原体等安全管理に係わる教育訓練や県立大学理学部、同大学先端医療工学研究所及び環境人間学部との合同研究発表会も行った。

なお、当研究所職員以外の地域保健関係従事者等に対する研修会は、7.5、7.6 及び 7.7 に記載している。

3.1.2 GLP 信頼性確保部門業務

（1）食品 GLP 信頼性確保部門

平成 10 年 4 月 1 日付け「兵庫県の食品衛生検査施設における検査等の業務管理要綱」（令和 4 年 4 月 1 日一部改正）に基づき、当研究所感染症部、健康科学部及び検査室設置健康福祉事務所（宝塚、加古川、龍野、豊岡及び洲本）の計 7 施設に対して内部精度管理及び外部精度管理調査の結果を確認するとともに、内部点検を実施し、検査等の信頼性確保を行った。

信頼性確保部門による内部点検は、検査の実施及びデータの作成、試薬等の管理を重要点検項目とし、定期点検 7 施設、検査項目ごとの点検 42 日 112 項目、内部精度管理に係る点検 22 日 173 項目、外部精度管理調査に係る点検 16 日 18 項目を実施した。

その結果、概ね良好な結果がえられた。

なお、令和 5 年度に引き続き食品衛生検査施設に対して自己点検を推奨するとともに、更なる効果的、効率的な内部点検の実施に努めた。

(2) 感染症 GLP 信頼性確保部門

平成 28 年 3 月 7 日付け「兵庫県検査施設における感染症病原体等検査の業務管理要領」(令和 6 年 4 月 1 日一部改正)に基づき、当研究所感染症部及び検査室設置健康福祉事務所(宝塚、加古川、龍野、豊岡及び洲本)の計 6 施設への内部監査を実施した。また、GLP 対象検査を実施した施設に対して内部精度管理及び外部精度管理調査の結果を確認し、検査等の信頼性確保を行った。

信頼性確保部門による内部監査は、定期監査 6 施設、検査項目ごとの監査 6 日 11 項目、内部精度管理に係る監査 6 日 12 項目、外部精度管理調査に係る監査 2 日 3 項目を実施した。

その結果、概ね良好な結果が得られた。

3. 1. 3 研究支援・企画調整

(1) 研究課題等評価調整会議の開催

12 月 23 日（月）に令和 6 年度県立健康科学研究所研究課題等評価調整会議（内部評価委員会）をオンラインにより開催し、研究課題 2 題について、事後評価及び事前評価を受けた。なお、中間評価及び追跡評価に係る研究課題はなかった。

評価結果は、事後評価及び事前評価を受けた研究課題 2 題について、採択された。

ア 事後評価

- （感染症部）感染症の原因となる病原体の迅速検出をめざした新規検査手法の導入に関する調査研究

イ 事前評価

- （感染症部）ノロウイルスをはじめとする胃腸炎ウイルスにおける全ゲノム解析の確立に関する研究

また、上記研究課題の 2 題、について、外部評価専門委員会による外部評価（令和 6 年 3 月 12 日開催）を受けた。

(2) 倫理審査委員会の開催

人を対象とする研究や人体より採取

した試料（血液、尿等）を用いる研究の実施にあたっては、倫理的妥当性や科学的合理性が求められるとともに、個人情報等プライバシーに配慮することが不可欠である。このため、「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」（令和 3 年 3 月 23 日）に基づき、第三者を含む委員から構成する倫理審査委員会を設置し、開催状況、結果等については当研究所ホームページで公表してきた。

令和元年度からは、外部の倫理審査委員会を活用することとし、兵庫県薬剤師会学術倫理審査会において行われた審査結果を当研究所ホームページで公表している。

なお令和 6 年度は、該当する研究課題の継続申請を行い承認が得られた。

(3) 研究アドバイザーの設置

最新の技術分野の補完や現場サイドの観点からの多様な事例を踏まえた指導・助言等を得るために、外部の有識者を「研究アドバイザー」として委嘱した。

令和 6 年度は、感染症学と食品関連等の専門家の 2 名に指導、助言を依頼した。

(4) 兵庫県立大学との連携

兵庫県立大学（理学部、同大学先端医療工学研究所及び環境人間学部）と当研究所が取り組んでいる研究内容・成果をより深く理解し、今後の研究活動に役立てるため、合同で研究発表会を開催した。

令和 6 年度は、対面による研究発表会を開催した。

月 日	合同研究発表会内容
11. 5	○県立大学環境人間学部との研究発表会 【研究発表】 ・「時間栄養学からみた朝食の重要性」 県立大学環境人間学部 助教 半澤 史聰 ・「兵庫県における次世代シーケンサーを用いた原因不明集団胃腸炎の解析事例」 感染症部 島本 章義 【意見交換】出席者 60 名

2. 13	○県立大学理学部・先端医療工学研究所との研究発表会
	<p>【研究発表】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「先端医療工学研究所の紹介」 　　県立大学先端医療工学研究所 　　副所長 藤田 孝之 ・「ゴルジ体と健康」 　　県立大学理学部・大学院理学研究科 　　教授 吉田 秀郎 ・「米に含まれるカドミウムの分析について」 　　健康科学部 今井 史 <p>【意見交換】出席者 26名</p>

(5) オンライン文献検索システム (JDream) の利用

洋雑誌の高騰、予算縮減の中、研究に必要な文献検索を十分に実施できるよう、専門図書購読に代え平成17年4月より固定料金制のオンライン文献検索システム (JDream) を導入している。

令和6年度の検索実績は83回であった。

3. 1. 4 情報発信・提供

(1) 体験型科学教室「夏だ！サイエンス DE チャレンジ」の開催

地域に開かれた研究所を目指して、小学生・中学生の夏休みの自由研究に役立ててもらうため科学実験を行う体験型科学教室を8月7日（水）に開催した。実験テーマは次表のとおりで15名が参加した。

実験テーマ	担当部
微生物を見てみよう！ ・手の汚れを見てみよう ・顕微鏡で観察しよう	感染症部
身のまわりの水について調べてみよう！ ・硬水と軟水の違いを調べよう ・いろんな水を測ってみよう	健康科学部

(2) サマーチャレンジ「夏休み自宅科学教室」の実施

地域における科学技術の学習機会を提供するために、サマーチャレンジ「夏休み自宅科学教室」を7月22日（月）

から8月30日（金）に実施し、当研究所ホームページに実験テキストを掲載した。

実験テキストは次表のとおりで、1名が参加した。

実験テキスト	担当部
小麦粉からガムを作ろう	健康科学部
納豆菌を阻止できるかな？	感染症部
微生物を培養しよう	感染症部
夏の大敵！蚊について調べてみよう	感染症部
結晶を作ってみよう	健康科学部
感染症について調べてみよう	感染症部
ビタミンCを測ろう	健康科学部

(3) 広報誌の発行

広報誌「健科研リポート」を年2回発行し、ホームページに掲載するとともに兵庫県公式Instagramで発信し、広く県民に情報提供を行った。

当研究所の業務を県民に対して分かりやすく解説するため、話題性を考慮した特集記事、トピックス、インフォメーションとして編集している。

第28号（令和6年8月発行）の特集では、「梅毒の流行」、トピックスでは、「温泉由来の可燃性天然ガス（メタンガス）について」を掲載した。

第29号（令和6年12月発行）の特集では、「動物用医薬品について」、トピックスでは、「感染性胃腸炎（ノロウイルス）」を掲載した。

(4) 兵庫県広報誌「県民だより HYOGO」での情報発信

兵庫県広報誌「県民だより HYOGO」6月号（東播磨県民局からのお知らせ）で施設見学会の案内、7月号（マンスリー・インフォ）で体験型科学教室「夏だ！サイエンス DE チャレンジ」の募集、8月号（マンスリー・インフォ）でサマーチャレンジ「夏休み自宅科学教室」の募集、及び2月号（東播磨県民局からのお知らせ）にて花粉情報の発信を掲載した。

(5) Instagramでの情報発信

食肉の残留医薬品検査を例にして県内の食の安全安心に貢献していることや、他にも様々な調査研究、試験検査に取り組み研究成果を研究会等で発表し他の研究機関とも共有していることを情報発信した。

(6) ホームページの運営

県民生活の安全と安心を守るため、調査研究結果や感染症、食品、医薬品、飲料水等に対する科学的・技術的情報について、ホームページを通じて広く県民に提供している。

令和4年度から引き続き、兵庫県のホームページを活用して当研究所の情報を発信しており、県民の関心が高い感染症情報や花粉情報を検索しやすいように配置している。

感染症情報は毎週（インフルエンザの学校サーベイランス情報は毎日）、スギ・ヒノキ花粉飛散シーズン中の花粉情報は毎日（シーズン外は毎週）、夏から冬のブタクサ・ヨモギ花粉飛散シーズン中は毎週更新し、最新情報を迅速に提供了。

その結果、トップページへのアクセス件数は13,029件で、“感染症情報”は217,766件、“花粉情報”は50,504件であった。

3.2 感染症部

感染症部では、主として次の業務を所管している。

- ①「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）に基づく病原体検査や病原体サーベイランス、病原体の性状等に関する調査研究
- ② 部内に設置している「感染症情報センター」から新型コロナウイルス感染症をはじめとした各種感染症患者の発生動向等を県民や関係機関に提供
- ③ 「食品衛生法」に基づく食中毒原因微生物の特定や感染源調査など、行政ニーズに基づいた様々な試験研究や情報提供を行い、感染症対策や食中毒対策等を科学的に支援している。
具体的には、次の業務を重点的に実施している。

【新型コロナウイルス変異株の動向監視】

令和2年1月以降、世界的に流行した新型コロナウイルスの変異動向を把握するため、令和3年1月からPCR法による変異株検出のために迅速スクリーニングを導入し、同年3月末には、全ゲノム解析により変異株を同定する体制を整備し、継続的に解析している。これまでに、累計で約4千件の解析を実施した。

【輸入感染症の侵入監視】

オリンピックや万博等、多くの人が集まるマスギャザリング対策として、MERS(中東呼吸器症候群)、デング熱、ジカウイルス感染症、さらには令和4年度からはエムポックスなど、散発する輸入感染症の検査体制を整備している。

【感染症情報センターによる情報提供】

医療機関からの感染症患者発生報告を疾病ごとに、地域や年齢別に集

計・解析した情報、病原体の検出結果、インフルエンザ流行期の学校の欠席状況及び新型コロナウイルスの地域や年齢別に集計・解析した情報等を週報・月報として取りまとめ、ホームページ等を活用して県民や関係機関に情報提供している。

【薬剤耐性対策に係る調査・分析】

WHOで世界的な課題とされている薬剤耐性対策の一環として、腸内細菌、結核菌、インフルエンザウイルス等の薬剤耐性遺伝子の保有状況等の調査・分析を行っている。

【食中毒、感染症対策等への支援】

食中毒事案発生時の原因微生物の特定、麻しん、風しん、日本紅斑熱、つつが虫病等の病原体検査を行うほか、依然として県内で761人（令和6年）もの患者が発生している結核対策の一環として、結核菌の遺伝子型別（VNTR法）分析を行い、得られたデータを関係機関と共有して、感染源や感染経路の調査を支援している。

【試験検査の信頼性確保】

食品GLP、感染症GLPの遵守を徹底するとともに、外部精度管理事業にも参加し、各種微生物検査の信頼性確保を図っている。

3.2.1 調査研究

(1) ダニ媒介感染症のゲノム解析体制の整備に関する研究

国内で発生がみられるダニ媒介感染症には主なものとして重症熱性血小板減少症候群(SFTS)、日本紅斑熱、つつが虫病があげられる。本研究は、近年増加傾向にある日本紅斑熱を中心に、上記3種のダニ媒介感染症のゲノム解析実施体制を確立することを目的とする。

令和5年度および6年度の行政検査でPCR陽性となった患者17名の臨床検体からリケッチアの分離を試みたところ、

血液1検体から日本紅斑熱リケッチャの分離が確認された。この分離株について次世代シーケンサによるゲノム解析を実施した結果、参照配列YH_M株に対して、99%以上の配列を得ることができ、62か所の変異部位が確認された。

(2) ヒト及び食品由来細菌の薬剤耐性状況サーベイランス強化に資する研究

兵庫県内で発生したカルバペネム耐性腸内細菌目細菌(CRE)感染症患者由来菌株の薬剤耐性遺伝子保有状況調査に加えて、厚生労働科学研究「ワンヘルス・アプローチに基づく食品由来薬剤耐性菌のサーベイランスと伝播機序解明のための研究」分担課題「全国地研ネットワークに基づく食品およびヒトから分離されるサルモネラ、大腸菌、カンピロバクター等の薬剤耐性の動向調査」に参加し、ヒト由来大腸菌、サルモネラ属菌、カンピロバクター属菌の薬剤感受性検査、薬剤耐性遺伝子検査を実施した。

ア CRE 感染症患者由来菌株の薬剤耐性遺伝子保有状況調査

CRE感染症として届出のあった患者28人から分離されたCRE28株(*K. aerogenes* 9株, *K. pneumoniae* 8株, *E. cloacae* 7株, *E. coli* 2株, *E. cloacae complex* 2株)と届出対象外の患者由来カルバペネム耐性*K. pneumoniae*について、耐性遺伝子検索を実施した。その結果、カルバペネマーゼ遺伝子はIMP-6が*E. coli* 1株から、IMP-1が*K. pneumoniae* 1株から、NDM-1が*E. cloacae* 2株から、OXA-48型が*E. coli* 1株から検出された。これらカルバペネマーゼ遺伝子保有株5株のうち2株はCTX-M型の基質特異性拡張型β-ラクタマーゼ(ESBL)遺伝子も同時に保有しており、型別によりCTX-M-15と判明した。

イ 大腸菌及びサルモネラ属菌の薬剤耐性調査

令和6年に収集したヒト由来大腸菌35株、サルモネラ属菌3株及びカ

ンピロバクター属菌2株に対して抗生素質18剤についてディスク拡散法による感受性試験を行った。その結果、大腸菌17株及びサルモネラ属菌1株が1剤以上の抗生素質に耐性を示した。

3.2.2 試験検査

(1) 細菌等の検査

ア 侵襲性肺炎球菌感染症感染源調査
(厚生労働省感染症流行予測調査)
定期予防接種導入(PCV7/PCV13/PCV15/PPSV23)による侵襲性肺炎球菌感染症に対する効果を確認するため、医療機関で分離された肺炎球菌菌株について、血清型別を実施した。

令和6年度は14検体を精査し、小児由来の菌株は全てPVC13非含有血清型であった。

イ 結核菌の検査

健康福祉事務所・保健所(以下「健康福祉事務所等」という。)から検査依頼があった105検体について遺伝子型別(VNTR法)(24Beijing法)分析を行った。このうち23菌株が新たに同一遺伝子型のクラスターを形成し、2菌株がコンタミネーションのため型別不能であった。

また、主要な抗結核薬に対する薬剤感受性試験を2検体について実施し、1検体は全ての薬剤に感受性を示し、1検体はEB(エタンブトール)に耐性を示した。

ウ 腸管出血性大腸菌感染症に係る依頼検査

健康福祉事務所等から依頼のあった腸管出血性大腸菌43菌株(0157 37株, 0111 2株, 08 1株, 076 1株, 0177 1株, 0gN3 1株)について血清型別、毒素型別を実施した。さらに、広域関連事例の検出に有用なMLVA解析を実施し、国立感染症研究所行われた結果と一致することを確認した。

エ 食中毒(疑)発生時の細菌検査

健康福祉事務所で有症者から分離

されたサルモネラ属菌について、血清型別を実施した。また菌株を国立感染症研究所に送付し、ゲノム解析を依頼した。

オ クドア(寄生虫)が原因と疑われる食中毒(疑)の検査

生食用鮮魚を喫食後に発生した食中毒(疑)(一過性の嘔吐下痢症)の原因を明らかにするため、鮮魚残品3検体(タイ、サワラ、ヨコワ)及び患者便3検体について寄生虫 *Kudoa septempunctata* 遺伝子の検査を実施した。その結果 *Kudoa septempunctata* 遺伝子は検出されなかった。鮮魚残品3検体について顕微鏡検査を行ったところ、サワラから4つの、ヨコワから6つの極囊を有する胞子を検出し、それぞれ *Kudoa iwatai*, *Kudoa hexapunctata* と同定した。

カ 輸入ナチュラルチーズのリストリア菌の検査

食品衛生監視指導の一環として、販売店で収去された輸入ナチュラルチーズ16検体について、リストリア菌 (*L. monocytogenes*) の検査を行った。その結果、検体からリストリア菌は検出されなかった。

キ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症に係る依頼検査

劇症型溶血性レンサ球菌感染症の患者12人から分離された12菌株をリファレンス近畿支部センター経由で国立感染症研究所に送付した。EMM型等の詳細な解析により、国内で優勢な溶血性レンサ球菌の型の把握に活用された。A群溶血性連鎖球菌は全てM1UK系統株であった。

ク 侵襲性肺炎球菌感染症に係る依頼検査

侵襲性肺炎球菌感染症の患者6人から分離された7菌株について、遺伝子検査により血清型を同定し、ワクチンに含まれる血清型との相違を明らかにした。

ケ CRE感染症に係る依頼検査

CRE感染症の患者28人から分離された28菌株(*K. aerogenes* 9株, *K. pneumoniae* 8株, *E. cloacae* 7株等)と、届出基準を満たさないが院内感染が疑われた患者由来カルバペネム耐性 *K. pneumoniae* 1株について、阻害剤による薬剤耐性スクリーニング試験、薬剤耐性遺伝子の検出及び型別試験を実施した。院内感染が疑われる事例の患者由来株2株は、パルスフィールドゲル電気泳動法による解析結果と保有薬剤耐性遺伝子から由来が異なると考えられた。

コ その他の細菌等の依頼検査

レプトスピラ症疑い患者から採取した血液を国立感染症研究所に送付し、レプトスピラ抗体検査及び遺伝子検査を依頼した。結果はレプトスピラ抗体陽性、遺伝子陰性であった。

ブルセラ症疑い患者から採取した血液を国立感染症研究所に送付し、ブルセラ症抗体検査を依頼した。結果は陰性であった。

髄膜炎菌感染症患者から分離された髄膜炎菌を国立感染症研究所に送付し、血清群、遺伝子型及び薬剤感受性の検査を依頼した。血清群はY群、遺伝子型はST-1655、7薬剤に対して感性を示した。

腸チフス患者から分離されたチフス菌株を国立感染症研究所に送付し、ファージ型別検査を依頼した。結果はUVS4であった。

その他、インフルエンザ菌1株の表面型別、サルモネラ属菌6株の血清型別、大腸菌16株の血清型別及び病原遺伝子検出を行った。また、カンピロバクター属菌2株、プレジオモナス属菌1株、エロモナス属菌1株の同定を行った。

(2) ウイルス及びリケッチャの検査

ア 新型コロナウイルスのゲノム解析

今年度、県内の民間検査会社で新型コロナウイルス陽性となった検体の

提供を受けて、41件のゲノム解析を行った。

国立感染症研究所の解析プラットフォーム (PathoGenS) による系統解析の結果、型別不能であった12検体を除いた29検体は以下のとおりである。4月から5月においては、昨年度後半から優勢であったEG.5系統が1件、JN.1系統が1件、JN.1系統の組換え体であるXDQ、XDVがそれぞれ3件、1件であった。5月以降はJN.1系統の孫系統であるKP.3系統が出現し、11月までで19件検出された。12月以降は、JN.1系統が1件見られたほか、JN.1系統とKP.3系統の組換え体であるXEC系統が2件、XEK系統が1件検出された。

イ インフルエンザ集団感染事例等におけるインフルエンザウイルスの検査

インフルエンザの流行初期、流行期に小学校や保育所等においてインフルエンザ様疾患患者が集団発生した事例または重症例について、健康福祉事務所の依頼により、インフルエンザウイルスの検査を実施した。

集団感染が発生した中学校1施設から1検体搬入されAH1pdm09ウイルスが検出された。また重症例が2検体搬入され、共にAH1pdm09ウイルスが検出された。

ウ 感染症発生動向調査におけるインフルエンザウイルスの検査

県内のインフルエンザの流行状況を把握するため、指定提出機関で採取された検体のインフルエンザウイルス検査を行った。

(ア) 検体の搬入

20か所の指定提出機関うち9か所からインフルエンザの流行期を中心として、咽頭、鼻腔ぬぐい液等の94検体が搬入された。

(イ) 検出状況

94検体中インフルエンザウイルスAH1pdm09が64件、AH3型が15

件、B型(Victoria系統)が9件検出された。

エ 令和6年度新型インフルエンザウイルス系統調査・保存事業(厚生労働省への協力事業)

新型インフルエンザウイルスの出現が予測されるウイルス株のうちワクチン製造や検査キット等の作製に必要な株を事前に収集し、迅速なワクチンの生産や検査キットの供給を可能にすることを目的として鳥インフルエンザウイルスの分離を試みた。

冬季に県内のため池に飛来した水鳥(ホシハジロ、ヒドリガモ等)の糞便115検体について発育鶏卵法によりウイルス分離を試みた。その結果、全ての検体からインフルエンザウイルスは分離されなかった。

オ 令和6年度新型インフルエンザウイルスの出現監視を目的とした感染源調査(厚生労働省感染症流行予測調査)

新型インフルエンザウイルスの出現監視を目的として、県内産の豚の鼻腔スワブからインフルエンザウイルスの分離を行った。6月から3月にかけて毎月10頭、合計100頭から検体を採取した。

その結果、全ての検体からインフルエンザウイルスは分離されなかった。

カ 令和6年度日本脳炎感染源調査(厚生労働省感染症流行予測調査)

日本脳炎の発生を未然に予測し、その予防対策を効果的に行うため、6か月未満の豚血清中の日本脳炎ウイルスに対する赤血球凝集抑制(HI)抗体を測定し、日本脳炎ウイルスの活動状況を調査した。6月から9月にかけて県内飼育ブタから8回にわたり採血し、1回当たり10頭、合計80頭分の血清を検査した。

その結果、7月24日採取分の3頭(30%)、8月7日採取分の2頭(20%)、8月28日採取分の4頭(40%)が日本脳炎ウイルスのHI抗体陽性となり、9

月 4 日, 25 日採取分はすべて陽性となつた.

キ 令和 6 年度ロタウイルス感染症感染源調査(厚生労働省感染症流行予測調査)

定期予防接種導入による重症ロタウイルス感染症に対する効果を確認するため、医療機関で採取された感染性胃腸炎患者糞便 10 検体について検査を実施し、10 検体から同ウイルス遺伝子が検出された。

ケ 蚊媒介感染症の検査

デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症の流行地域に渡航歴があり、発熱、発疹等の症状を呈した患者や渡航歴がなくてもこれらの疾病が疑われる患者を対象として、健康福祉事務所の依頼により、リアルタイム RT-PCR 法による検査を実施した。

疑い患者 4 人から採取された血液、尿の 8 検体を検査した結果、3 人からデングウイルスが検出された。このうち 2 人は 2 型、1 人は 1 型であり、推定感染地域はタイまたはインドネシアであった。

ケ 感染症発生動向調査における病原体検査(インフルエンザウイルスを除く)

感染症の原因となる病原体の県内の流行状況を把握するため、小児科定点医療機関で採取された患者検体の病原体検索を行った。令和 6 年度に検体が採取された 92 人の患者の咽頭ぬぐい液、膿液、便等 121 検体の検査を行った。

(ア) 咽頭結膜熱

3 人の患者のうち、1 人からアデノウイルス 1 型、1 人からアデノウイルス 2 型、1 人からコクサッキーウィルス B3 型と EB ウィルスとサイトメガロウイルスが検出された。

(イ) 手足口病

2 人の患者のうち、1 人からコクサッキーウィルス A6 型、1 人からエコーウィルス 18 型が検出された。

(ウ) 無菌性髄膜炎

4 人の患者のうち、1 人からコクサッキーウィルス B3 型、1 人からエコーウィルス 11 型が検出された。

(エ) RS ウィルス感染症

55 人の患者のうち、39 人から RS ウィルス A 型、13 人から RS ウィルス B 型が検出された。そのうち、ライノウイルス、コクサッキーウィルス A6 型、エンテロウイルス D68 型等との重複感染が 17 例あった。

(オ) 感染性胃腸炎

8 人の患者のうち、3 人からノロウイルス GII.7、1 人からノロウイルス GII.17 が検出された。

コ 日本紅斑熱及びつつが虫病リケッチャの検査

県内で散発する日本紅斑熱の原因リケッチャである *Rickettsia japonica* の遺伝子検査及び抗体検査を健康福祉事務所等からの依頼により実施した。また、医療機関等からの検査希望が多いつつが虫病リケッチャ (*Orientia tsutsugamushi*) についても、遺伝子及び 5 種の抗原を用いた抗体検査を実施した。

日本紅斑熱は 28 人から採取された血液、痂皮等 74 検体の依頼があり、5 人が陽性であった。つつが虫病は 19 人から採取された血液、痂皮等 50 検体について検査を実施し、すべて陰性であった。

サ 重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) ウィルスの検査

重症熱性血小板減少症候群を疑う患者について、健康福祉事務所等からの依頼により、16 人から採取された血清等 17 検体について遺伝子検査を実施し、1 人から同ウイルス遺伝子が検出された。

シ A 型及び E 型肝炎ウィルスの検査

健康福祉事務所の依頼により、A 型肝炎ウィルスについて、患者 1 人から採取された血液及び糞便の 2 検体を検査し、同ウイルス遺伝子が検出され

た. また, E型肝炎ウイルスについて, 患者 1 人から採取された血液及び糞便の 2 検体を検査し, 同ウイルス遺伝子が検出された.

ス HIV の確認検査

平成 17 年度から健康福祉事務所において HIV 抗体スクリーニング検査が行われており, 当研究所ではスクリーニング検査陽性となった検体の確認検査を実施している. 令和 6 年度, 健康福祉事務所の依頼により 2 検体について確認検査を実施し, 全て陰性であった.

セ 市販生食用かきのノロウイルス検査

市販生食用かきのノロウイルスによる衛生上の危害を防止するため, 流行期の 12 月から 2 月に試買調査を実施した. 15 検体について検査を実施し, 全て陰性であった.

ソ ウィルスによる集団胃腸炎事例の感染経路, 感染源調査

集団胃腸炎事例について, 感染経路, 感染源を追求するため, 健康福祉事務所の依頼により, ノロウイルス等の検査を実施した.

(ア) 発生状況

健康福祉事務所から 40 事例の検査依頼があり, 全て食中毒事例(有症苦情事例を含む)であった. 原因施設の内訳は, 36 事例が飲食店, 1 事例が製造業, 3 事例がその他であった.

(イ) 感染経路

40 事例は全て食品等を介した感染が疑われた事例であった.

(ウ) 感染源

40 事例 450 検体(有症者便 191 検体, 調理従事者便 150 検体, 拭き取り 103 検体及び検食 6 検体)について検査し, 33 事例 215 検体からノロウイルスが検出された.

(エ) 遺伝子型別検査

ノロウイルス陽性 33 事例の遺伝子型の内訳は, G II. 17 が 25 事例, G

II. 12 が 1 事例, G II. 7 が 2 事例, G II. 4 が 3 事例, G II. 3 が 1 事例, G II. 2 が 1 事例検出された.

タ 麻しんウイルスの検査

健康福祉事務所等からの依頼により, 麻しん疑い患者 31 人から採取された血液, 咽頭ぬぐい液等 90 検体について, 麻しんウイルスの遺伝子検査を実施した. 3 人から麻しんウイルス(遺伝子型 B3)が検出された.

チ 風しんウイルスの検査

風しん排除に向けた取組の一環として, 健康福祉事務所等からの依頼により, 風しん疑い患者 11 人から採取された血液, 咽頭ぬぐい液等 32 検体について遺伝子検査を実施した. 全て風しんウイルス陰性であった.

ツ 急性弛緩性麻痺の病原体検査

健康福祉事務所等から依頼のあった急性弛緩性麻痺 1 人の血液, 髓液, 便の 3 検体について, エンテロウイルス, パレコウイルス等の病原体検査を実施した. 病原体は検出されなかった.

便検体の一部はポリオウイルスの検査のため国立感染症研究所に送付した.

テ 急性脳炎の病原体検査

健康福祉事務所等から依頼のあった急性脳炎 3 人の血液, 咽頭ぬぐい液, 髓液, 便等 14 検体について, エンテロウイルス, ヒトヘルペスウイルス 6 型, ムンプスウイルス等の病原体検査を実施した. 1 人の咽頭ぬぐい液と直腸ぬぐい液からエンテロウイルス 71 型, 1 人の便からエンテロウイルス 71 型, 1 人の髓液から水痘・帯状疱疹ウイルスが検出された.

ト 令和 6 年度新型コロナウイルス下水サーベイランス(厚生労働省感染症流行予測調査)

下水処理場を採水定点として設定, 下水中の新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)ゲノム量を測定し, 定点当たり患者報告数と比較し, 定期的に公表することを目的とする. 県内 2 地

点で採水した下水 97 検体の検査を行った。すべての検体から SARS-CoV-2 が検出され、ウイルス RNA 濃度とそれぞれの下水処理区の管轄健康福祉事務所(保健所)の患者報告数と比較し、NIJIs (New Integrated Japanese Sewage Investigation for COVID-19) の web サイトで公表した。

(3) 県感染症情報センター

ア 感染症発生動向調査週報患者情報分析

県内の感染症発生動向を把握するため、感染症法及び「兵庫県感染症予防計画」に基づく感染症発生動向調査が継続的に実施されている。

当研究所は基幹地方感染症情報センターとして、政令市を含む県下の医療機関からの感染症患者情報を分析し、週報として健康福祉事務所等、市町、医師会、医療機関等に還元すると共に、ホームページを通じて広く県民に公開している。

感染症法の対象疾病のうち、全数把握の疾病（87 疾病）は県内全ての医療機関から、定点把握の週報対象疾病については、インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）及び新型コロナウイルス感染症が県下 199 定点から、小児科対象の 10 疾病が 129 定点から、眼科対象の 2 疾病が 35 定点から、病院対象（基幹定点）の 5 疾病が 14 定点から、毎週、健康福祉事務所等を通じて報告される。なお、定点把握の週報対象疾病的定点数は令和 7 年 4 月 6 日までのもので、令和 7 年 4 月 7 日からは急性呼吸器感染症が追加され、インフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く）及び新型コロナウイルス感染症と共に、急性呼吸器感染症定点対象の疾病となつた。同時に、急性呼吸器感染症定点対象疾病と小児科対象疾病の定点数が変更になっている。

令和 6 年は、全数把握の疾病延べ 2,147 人、定点把握の週報対象疾病延べ 215,465 人の患者報告があり、毎週これらのデータを集計、解析して各種感染症の動向に関するコメント及びグラフ等を掲載した週報を 52 報発行した。

イ 感染症発生動向調査月報患者情報分析

上記の週報対象疾病と同様に、月報対象疾病についても情報分析を行っている。定点把握の月報対象疾病は、性感染症の 4 疾病が県下 46 定点から、病院対象（基幹定点）の 3 疾病が 14 定点から毎月、健康福祉事務所等を通じて報告される。

令和 6 年は、定点把握の月報対象疾病延べ 3,109 人の患者報告があり、毎月各疾病的発生状況を分析して、コメント及びグラフ等を掲載した月報を 12 報発行した。

ウ 感染症発生動向調査年報患者情報分析

感染症法の対象疾病である一類から五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症の合計 113 疾病（全数把握 87 疾病、定点把握 26 疾病（令和 7 年 4 月 6 日まで。なお、令和 5 年 5 月 7 日までは、全数把握 88 疾病、定点把握 25 疾病））について、週報及び月報で報告した患者発生状況を取りまとめ、週別/月別、保健所別、年齢階級別の患者数等にコメントを付けて、年報として編集している。

令和 5 年の兵庫県感染症発生動向調査事業年報は、令和 7 年 1 月末に冊子として発行し、健康福祉事務所等、市町、医師会や医療機関等に配布するとともに、ホームページに掲載して広く県民に情報提供した。

エ インフルエンザ情報センターからの情報提供

新型インフルエンザ（H1N1）流行対策の検証委員会の提言に基づき、インフルエンザに関する情報を一元的に

管理提供するため、学校サーバイランス、医療機関情報及び広域・救急医療情報の3つのシステムのポータルサイトを県の感染症情報センターホームページ上に設け、感染症発生動向調査情報との一体的な情報提供を図った。

(4) 外部精度管理

令和6年度は厚生労働省が実施した外部制度管理事業の課題1（腸管出血性大腸菌の遺伝子検査）、課題2（麻しん・風しんウイルスの遺伝子解析）課題3（コレラ菌の同定検査）に参加し、良好な結果が得られた。

また、結核研究所が実施した結核菌遺伝子型別（VNTR法）外部制度評価に参加し、良好な結果が得られた。

(5) 受託及び共同研究

感染症媒介蚊発生動向調査

県疾病対策課の依頼に基づき、蚊媒介感染症対策の基礎資料とすることを目的とした媒介蚊の定点モニタリング調査を6月から10月の5回、当研究所敷地内及び兵庫県庁の庁舎敷地内の2箇所で実施した。

その結果、当研究所敷地内では、コガタアカイエカが124頭、ヒトスジシマカが58頭、シナハマダラカが15頭、アカイエカが3頭、ハマダライエカが2頭、ヤマトヤブカが1頭、オオクロヤブカが1頭、キンパラナガハシカが1頭、捕集された。

兵庫県庁の庁舎敷地内では、ヒトスジシマカが73頭、アカイエカが12頭、捕集された。

3.3 健康科学部

健康科学部では、当研究所における理化学分野の業務を担当し、主に次の5項目に関する調査研究、試験検査及び研修指導を行い、県民の安全で安心な生活を確保するための施策の推進に寄与している。

- ①食の安全と安心の確保のための試験研究
- ②医薬品の規格及び不正使用に関する試験研究
- ③水道水の安全性確保に関する試験研究
- ④温泉に関する試験研究
- ⑤花粉飛散量や環境放射能の調査研究

食品の試験検査は、主に「兵庫県食品衛生監視指導計画」に基づく収去検査である。農産物や食肉中の残留農薬、残留動物用医薬品、食品中の食品添加物やアレルギー物質、さらに遺伝子組換え食品及び家庭用品中の有害物質等について試験研究を行った。

医薬品の試験検査は医薬品等一斉監視指導の後発医薬品品質確保対策に基づいて実施した。また、ジェネリック医薬品品質情報検討会（現ジェネリック医薬品・バイオシミラー品質情報検討会）に係る医療用医薬品試験として後発医薬品の溶出試験を行った。

水道原水及び水道水の試験検査については、「兵庫県水道水質管理計画」に基づく水質監視地点の検査及び市町からの依頼検査等を行った。また、県内の水質検査機関の外部精度管理調査を実施した。

温泉の試験検査は、温泉に含まれる成分及び可燃性天然ガス（メタン）を対象項目として実施した。

突発的な食品や飲料水の事件や事故等が発生した場合は、日常業務や調査研究等で培った試験検査技術を駆使して検査や必要なデータ提供ができる体制を整えている。

県のアレルギー疾患対策の一環として、花粉症予防のためにスギ・ヒノキの花粉

飛散時期には毎日、それ以外の時期は1週間単位で飛散花粉数を測定し、ホームページ等で情報発信した。

放射能に関わる調査として、原子力規制庁からの委託事業である「環境放射能水準調査」を実施した。

研修指導については、健康福祉事務所検査担当者等を対象に実施した。

なお、以下の調査研究は、国、全国の地方衛生研究所等の関係機関にも情報提供しており、科学的根拠に基づく行政の推進に貢献している。

3.3.1 調査研究

(1) LC-MS/MS を用いた自然毒成分の検査方法の確立

自然毒による食中毒は全国で年間数十件程度発生しており、そのうち約6割が植物性、残りの約4割が動物性のものである。植物性の自然毒としては、キノコや野草、園芸植物等によるものがあり、動物性のものには、貝毒やフグ毒、熱帶性魚類の毒などがあるが、理化学検査において厚生労働省が公定法を通知している物質は非常に少ない。

本研究では高速液体クロマトグラフ/タンデム質量分析装置（LC-MS/MS）を用い、分析未検討である植物性及び動物性自然毒の分析法を検討し、食中毒の原因となる自然毒の検査方法の確立を目的とした。

ドウモイ酸は記憶喪失性貝毒を引き起こす中毒原因物質の一つである。海外では養殖ムラサキイガイによる食中毒事例が報告されており、国際食品規格であるCODEXでは20 mg/kgを基準値として設定している。日本ではドウモイ酸を原因とした食中毒の報告例はないが、市販のムラサキイガイからの微量検出例やドウモイ酸を産生する珪藻もわずかに確認されている。

今回マガキ及びムラサキイガイ中のドウモイ酸の迅速分析法を検討し、妥当性評価を実施した結果、CODEXが定める性能基準を満たしていた。また県内で入

手したマガキ及びムラサキイガイを分析した結果、CODEX 基準値を超えるドウモイ酸は検出されなかった。

(2) 医薬品試験における試験条件変更の影響について

後発医薬品（ジェネリック医薬品）は、先発医薬品と治療学的に同等であるものとして製造販売が承認されたものであるが、後発医薬品の品質に対する患者や医療関係者の信頼は必ずしも高いとは言えない状況にある。当研究所においても、従来から厚生労働省等と連携して市場に流通している後発医薬品の溶出試験を実施しており、品質に対する信頼性の向上に寄与している。試験は対象製剤により異なるが、日本薬局方では令和4年12月に公布された第十八改正日本薬局方第一追補で、一般試験法「2.00クロマトグラフィー総論」が新設され、クロマトグラフィーの様々なパラメーターについて調整することができる範囲が具体的に示された。その規定された範囲内での試験条件の変更により生じる影響について、液体クロマトグラフィーの各種パラメーターのような分析化学的な視点だけでなく、試験時間や試薬コスト等も含めた多角的な評価を行うことを目的とした。

令和6年度は、液体クロマトグラフィーを用いた試験法の中から、イソクラティック溶離のモデルとしてシロドシン錠の溶出性を選択し、主にカラムの温度及び移動相組成についてクロマトグラフィー条件の調整を行い、保持時間及び理論段数等への影響を調査した。カラム温度の上昇に伴い、保持時間の減少がみられたが、今回の結果からは理論段数の変化に一定の傾向は認められなかった。また、移動相の有機溶媒組成割合を増加させると、保持時間の減少のほか、シロドシンのピーク面積の増加が確認され、理論段数は減少した。

(3) LC-MS/MS を用いた動物用医薬品の迅速分析法の開発

動物用医薬品は、家畜の疾病の治療、予防を目的として使用されているが、適切に使用されないと食品中に残留し、摂取によりヒトへの健康影響が懸念される。現在も新規動物用医薬品の開発が行われていることや食の嗜好の多様化により、今後食の安全において予測困難なリスクが発生する可能性がある。そのため、危機事案に際して、より迅速に対応可能な検査体制の整備が重要と考えられる。

そこで本研究では LC-MS/MS による畜水産物中の動物用医薬品を迅速かつ簡便に検出するような分析法の開発を目的とした。

令和6年度は、オキシテトラサイクリン等を含めた抗菌性物質28種類について分析法の検討を行い、良好な結果が得られた。

また、内寄生虫用剤イベルメクチン、モキシデクチンについて LC-MS/MS を用いた分析法の検討を行った。

(4) 水道水及び原水中の逐次改正対象項目及び要検討項目等の分析法に関する研究 (1)

水道法で規定されている水道水質基準は、水道水として必ず適合すべき「水質基準項目」の他に「水質管理目標設定項目」、「要検討項目」があり、最新の科学的知見に基づき逐次見直しが行われている。このような国等の動向に注視し、逐次改正に遅滞なく対応するとともに、飲料水の安全確保の裏付けとなる水道水及び原水の平時の依頼検査、水質危機管理時の原因究明のための試験検査等を高精度かつ迅速に行うための分析法の検討等を行うことを目的とした。本研究では、LC-MS/MS 分析に適した化合物を対象に実施した。

令和6年度は、水中の有機物が浄水処理過程の塩素消毒によって生成する消毒副生成物の一つで、比較的、検出率が

高い項目であるハロ酢酸類について、既存の基準項目3項目（クロロ酢酸、ジクロロ酢酸、トリクロロ酢酸）の分析法に要検討項目の6項目（ブロモクロロ酢酸、ブロモジクロロ酢酸等）を追加した一斉分析法について検討した。妥当性評価ガイドラインに基づき評価（添加試料の室内精度は除く）した結果、目標値が設定されていない要検討項目6項目についても基準項目の基準値の1/10以下の濃度レベルの測定が可能であった。

また、危機管理時への対応として、浄水処理対応困難物質（事故等により万一原水に流入した場合に通常の浄水処理では除去が困難で、かつ通常の浄水処理により水質基準項目等を高い比率で生成する物質）に設定されているヘキサメチレンテトラミン等の分析法の検討を行った。

(5) 水道水及び原水中の逐次改正対象項目及び要検討項目等の分析法に関する研究(2)-GC/MSやGC/MS/MSによる分析技術での対応-

同研究(1)と同じ目的でガスクロマトグラフ/質量分析装置(GC/MS)分析に適した化合物を対象に検討を実施した。

令和6年度は昨年度検討を行った水質管理目標設定項目の目標9のフタル酸ジ(2-エチルヘキシル)に、要検討項目2物質(フタル酸ジ(n-ブチル), フタル酸ブチルベンジル)を含むフタル酸エステル類7種を加えて検討を行った。その結果、検量線及び添加試料の評価で妥当性が得られ、フタル酸エステル類8種の一斉分析が可能となった。

またGC/MS対象農薬類やLC/MSで評価が難しい農薬類について個々の農薬を個別に分析し、対象物質の測定イオン等の基礎データを取得することで、GC/MS分析実施に向けて検討した。

3.3.2 試験検査

(1) 食品検査

「兵庫県食品衛生監視指導計画」に基づき、県内に流通する食品等について、基準に適合しないものがないか試験検査を実施し、食品衛生行政の推進に寄与した。

ア 穀類、野菜、果実等の残留農薬試験

健康福祉事務所が収去した84検体(国産品66検体、輸入品18検体)について、1検体あたり農薬295種及び代謝物5種の合計300種、検査項目数は計25,200項目の検査を行った。

国産品からは延べ23種、輸入品からは延べ8種の農薬あるいは代謝物が検出された(複数の検体で検出される農薬等がある)が、残留基準及び一律基準を超過する農薬等の残留は認められなかった。

イ 国産食肉の残留農薬試験

食肉衛生検査センターが収去した国産食肉12検体(牛肉、豚肉、鶏肉それぞれ4検体)について、農薬194種及びその代謝物6種の合計200種、検査項目数計2,400項目の検査を行った。その結果、残留基準及び一律基準を超過する農薬等の残留は認められなかった。

ウ 輸入畜水産食品の残留医薬品試験

健康福祉事務所が収去した輸入食肉14検体(牛肉5検体、豚肉4検体、鶏肉5検体)及び輸入エビ15検体について、24種(牛肉は26種)検査項目数計706項目の残留医薬品の検査を行った。その結果、いずれの検体からも医薬品は検出されなかった。

エ 国産食肉の残留医薬品試験

食肉衛生検査センターが収去した国産食肉24検体(牛肉5検体、豚肉9検体、鶏肉10検体)について、抗菌性物質20種を検査対象とし、各検体に指定された計480項目について検査を行った。その結果、豚肉2検体と鶏肉1検体からオキシテラサイクリンが、いずれも基準値以下の濃度で検出

された。その他の検体からは医薬品は検出されなかった。

オ 輸入かんきつ類の防かび剤試験

健康福祉事務所が収去した輸入かんきつ類 10 検体（オレンジ 4 検体、グレープフルーツ 5 検体、レモン 1 検体）について、防かび剤 4 種類、検査項目数計 40 項目の検査を行った。オルトフェニルフェノール、オルトフェニルフェノールナトリウム及びジフェニルは全ての検体から検出されなかった。イマザリルは 5 検体から、チアベンダゾールは 6 検体から検出されたが、基準値を超えるものはなかった。

カ 輸入食品における指定外添加物等の試験

健康福祉事務所が収去した輸入食品（缶詰、麺類、菓子類、ジャム、調味料等）40 検体について、着色料 38 種類（指定外 26 種類及び指定 12 種類）、パラオキシ安息香酸メチル（指定外保存料）、ソルビン酸（使用基準のある保存料）、*tert*-ブチルヒドロキノン（未指定酸化防止剤）及びサイクラミン酸（未指定甘味料）、検査項目数計 420 項目の検査を行った。その結果、全ての検体は日本の基準に適合していた。

キ 米の成分規格試験

健康福祉事務所が収去した県内産の新米 14 検体の玄米について、カドミウムの含有量を測定した。その結果、基準を超えて検出されるものはなかった。

ク 遺伝子組換え食品試験

健康福祉事務所が収去した遺伝子組換えの表示が無いダイズ穀粒 9 検体について、除草剤耐性 3 遺伝子、検査項目数計 27 項目の検査を行った。その結果、定量 PCR 対象検体のうち 1 検体は、3 遺伝子の含有率は 5% 以下で、他の 6 検体は定量下限値（0.1%）未満であり、また、定性 PCR 対象の 2 検体は全て陰性であり、表示基準に適

合していた。

ケ アレルゲン（特定原材料）を含む食品の試験

健康福祉事務所が収去した菓子類及び米加工品 10 検体について、アレルゲン（小麦）を検査した。その結果は、全て陰性であり、表示基準に適合していた。

コ 器具・容器包装の規格試験

健康福祉事務所が収去したガラス製品及び陶磁器製品各 10 検体、合計 20 検体の容器等について、鉛及びカドミウムの溶出試験（検査項目数計 40 項目）を行った。その結果、全て規格基準値の 1/10 未満であり、基準に適合していた。

(2) 貝毒検査

兵庫県海域における二枚貝等の食品としての安全性を確保するため、県林水産部水産漁港課の依頼により、兵庫県沿岸産貝類の麻痺性貝毒について、マガキ 56 検体、イワガキ 9 検体、アサリ 6 検体、合計 71 検体の検査を行った。試験結果は、令和 6 年 6 月に採取したマガキ 1 検体から 2.2 MU/g の麻痺性貝毒を検出した（規制値：4 MU/g）。その他の検体からは麻痺性貝毒は検出されなかった（検出限界値：2.0 MU/g）。

(3) 家庭用品のホルムアルデヒド検査

一般消費者の生活に供される家庭用品のうち、健康福祉事務所が試買した繊維製品（よだれ掛け、下着、外衣、帽子、寝衣等の乳幼児用衣類等）10 検体について、皮膚に障害を起こすホルムアルデヒドの検査を行った。その結果、すべて基準に適合していた。

(4) 水道水質検査

水道法に基づく水質基準項目検査のほか兵庫県水道水質管理計画に基づく監視地点の水道水及びその原水の水質監視を行い、県施策「水道水の安全性確保」の推進に寄与した。

ア 水道水質基準項目等の試験検査

県内市町水道事業者等からの依頼として、水質基準 51 項目と水質管理目標設定 27 項目（うち農薬類 115 種類），その他要検討項目等計 83 検体，1,137 項目の検査を実施した。

それらの検査の結果，浄水については水道水の基準値及び目標値以下であった。

イ 健康福祉事務所からの依頼検査

健康福祉事務所からの依頼により，水質基準項目検査（51 項目）のうち，機器未整備のため検査対応できない 43 検体，816 項目の検査を実施した。その結果，1 検体で塩素酸が基準値を超過した。他の 42 検体については基準値以下であった。

ウ 水道水質検査機関に対する外部精度管理

本県では，県内の水道水質検査実施機関及び関係行政機関が協議調整を行い，水道水質管理を円滑に実施し，より安全で良質の水道水を供給するために兵庫県水道水質管理連絡協議会を設置している。この協議会の中に精度管理委員会が置かれており，兵庫県水道水質検査精度管理実施要綱に基づき，当研究所が精度管理実施機関として県下の水道水質検査機関に対し，信頼性確保のため，毎年外部精度管理調査を実施している。

令和 6 年度は基準項目のうち，ナトリウム及びその化合物（以下，ナトリウムと略す），カルシウム・マグネシウム等（硬度）（以下，硬度と略す）の 2 項目を調査項目とし，ナトリウム，カルシウム及びマグネシウムの混合溶液を調査試料として配布した。ナトリウムは 17 機関，硬度は 21 機関の参加を得た。

各機関から提出された全データの統計解析の作業を行い，全機関と各機関の評価を行った。その結果，硬度の項目で個別分析されたカルシウム，マグネシウムのデータを含めて，全ての

機関が評価基準を満たす結果であった。これらの実施結果は報告書として取りまとめ，精度管理実施全機関に報告した。

(5) 空中飛散花粉の観測と情報の提供

県下 4 か所の健康福祉事務所（宝塚，龍野，豊岡，洲本）及び当研究所の 5 観測点で，春季のスギ・ヒノキ花粉飛散期間及び秋季のキク科花粉飛散期間を中心に，大気中の飛散花粉の通年観測を実施した。調査対象は，花粉症の有病率が高いスギ，ヒノキ，カバノキ科，ブタクサ及びヨモギの花粉とした。

春季については，各観測地点の毎日の花粉飛散状況を当研究所で取りまとめ，県感染症対策課，健康福祉事務所，一般財団法人日本気象協会及び株式会社ウェザーニューズに情報提供した。秋季については，各観測点で週単位に捕集した花粉試料を当研究所で判別し，測定値をまとめ，県感染症対策課，健康福祉事務所に毎週情報配信した。また，当研究所ホームページでも一般公開し，花粉飛散状況について広く情報発信した。

加古川市内における令和 6 年春季のスギ・ヒノキ花粉では，飛散開始日が 2 月 15 日，飛散終了日が 5 月 6 日で，この期間中に当研究所で観測した飛散花粉数は，スギ 1187.7（個/cm²），ヒノキ 859.1（個/cm²）であった。また，秋季ではブタクサが 8 月下旬から 10 月上旬まで，ヨモギが 6 月下旬から 12 月上旬まで観測された。これらの期間中に当研究所で観測した飛散花粉数は，ブタクサ 6.1（個/cm²），ヨモギ 52.3（個/cm²）であった。

(6) 医薬品・医療機器等一斉監視指導における試験

医薬品等一斉監視指導の後発医薬品品質確保対策として，市場に流通している医薬品の溶出試験を実施した。令和 6 年度は HMG-CoA 還元酵素阻害剤 12 検体の溶出規格試験を行った。

(7) 危険ドラッグ等試験

県内で一般販売される危険ドラッグの疑いのある製品について、指定薬物（合成カンナビノイド等）の検査を迅速に行う体制を継続しているが、令和6年度は当該検査事例がなかった。

(8) 温泉分析

ア 温泉の成分分析

温泉法の規定により、温泉を公共の浴用又は飲用に供する者は、利用許可申請時及び10年ごとに温泉成分分析を受け、その結果に基づき施設内の見やすい場所に温泉の成分や入浴上の注意等を掲示することになっている。

当研究所は温泉法に定められた登録分析機関であり、令和6年度は県内事業者から9件の依頼を受け、環境省が定めた鉱泉分析法指針に基づき成分分析を実施した。

イ 可燃性天然ガス（メタン）濃度の測定

温泉法では、可燃性天然ガスによる災害防止のため、登録分析機関等で温泉水の可燃性天然ガス（メタン）濃度を測定し、濃度に応じて措置を講じる必要がある。

令和6年度は、県内事業者から7件の依頼があり、環境省告示法に基づき試験を行った。

(9) その他外部からの委託・依頼等を受けた試験及び調査研究等

ア ジェネリック医薬品・バイオシミラ一品質情報検討会に係る医療用医薬品試験

厚生労働省から委託を受け、当研究所を含む10都府県と国立医薬品食品衛生研究所及び国立感染症研究所で構成されるジェネリック医薬品・バイオシミラー品質情報検討会製剤試験WGにおいて後発医薬品の品質を確認するため、溶出試験を行った。

令和6年度は、不眠症治療薬8製剤について、4種の試験液（pH 1.2, pH 3.0～5.0のいずれか, pH 6.8及び水）

を用いて先発製剤との溶出挙動の類似性を調査して報告した。

イ 環境放射能水準調査

原子力規制庁から委託を受け、県内で採取した環境試料（雨水、降下物、大気浮遊塵、土壤、上水等）89検体及び食品（魚類、牛乳、米、野菜等）5検体に含まれる人工放射性核種の測定を実施した。結果は、令和6年度の測定において異常は認められなかつた。

ウ 保健所設置市からの食品等の依頼検査

（ア）乳幼児衣類等の繊維製品5検体について、ホルムアルデヒドの検査を行った。

（イ）輸入かんきつ類3検体について、防かび剤の検査を行った。

（ウ）菓子類3検体について、アレルゲン（小麦）の検査を行った。

エ 医薬品成分等の依頼検査

県内医療機関から依頼を受け、試料1検体について医薬品成分2項目の検査を行った。

オ 医薬品・医薬部外品の製造販売承認審査における専門的評価

県薬務課から依頼を受け、県知事に製造販売承認申請された医薬品5品目及び医薬部外品2品目について、規格及び試験方法並びに安定性試験等に関する資料の妥当性に係る専門的評価を実施した。

(10) 外部精度管理

一般財団法人食品薬品安全センターが実施する残留農薬検査II（ほうれんそうペースト中の農薬の定性・定量）、残留動物用医薬品検査（豚肉（もも）ペースト中のスルファジミジンの定量）及び食品添加物検査I（果実ペースト中の酸性タール色素の定性）の食品衛生外部精度管理調査に参加した結果、良好な結果が得られた。

医薬品試験については、厚生労働省が実施する都道府県衛生検査所等にお

ける外部精度管理を目的とした技能試験(ベラパミル塩酸塩錠の定量法及び確認試験)に参加した。

4 試験検査の概要

4.1 行政検査件数（感染症部）

試験検査項目	感染症部検査件数	
	件数(患者数*)	検体数
結核菌の遺伝子型別等の検査	105	105
細菌等の検査	20	21
侵襲性肺炎球菌感染症感染源調査	45	45
腸管出血性大腸菌感染症の検査	12	12
劇症型溶血性レンサ球菌感染症の検査	34	34
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症の検査	16	16
輸入ナチュラルチーズのリストリア菌検査	8	8
クドアセプテンパンクタータ等寄生虫の検査	41	41
その他	281	282
小計		
インフルエンザウイルスの検査	97	97
ウイルス及びリケツチアの検査	115	115
新型インフルエンザウイルス系統調査・保存事業（水鳥の糞便）	100	100
日本脳炎感染源調査（豚血清）	80	80
日本紅斑熱リケツチアの検査	28	74
つつが虫病リケツチアの検査	19	50
重症熱性血小板減少症候群（SFTS）ウイルスの検査	16	17
HIV確認検査	2	2
市販生食用かきのノロウイルス検査	15	15
ウイルスによる集団嘔吐下痢症及び食中毒（疑）事例の感染源、感染経路調査	450	450
ロタウイルス感染症感染源調査（厚生労働省感染症流行予測調査）	10	10
麻疹ウイルスの検査	31	90
風疹ウイルスの検査	11	32
蚊媒介感染症（デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス）の検査	4	8
感染症発生動向調査における病原体検査	92	121
新型コロナウイルス下水サーベイランス（厚生労働省感染症流行予測調査）	97	97
その他	57	74
小計	1,224	1,432
合計	1,505	1,714

*臨床検体の場合

4.2 行政検査件数（健康科学部）

試験検査項目	健康科学部検査件数	
	検体数	検査項目数
水質検査 ^{※)}	45	842
食品等の理化学的検査	穀物、野菜等の残留農薬試験	84
	器具・容器包装の規格試験	20
	米の成分規格試験	14
	輸入食品の添加物試験	40
	輸入かんきつ類の防かび剤試験	10
	家庭用品の試買試験	10
	遺伝子組換え食品試験	9
	アレルゲンを含む食品試験	10
	国産食肉の残留農薬試験	12
	国産食肉の残留医薬品試験	24
	輸入食肉の残留医薬品試験	14
	輸入魚介類の残留医薬品試験	15
貝毒検査	71	71
小計	333	29,418
等医薬品検査	医薬品検査	20
	危険ドラッグ検査	0
	小計	20
のぞみの検査他	花粉飛散状況調査	404
	環境放射能水準調査	94
	小計	498
合計	896	41,662

※) 一般依頼検査の検体のうち、県水道水質管理計画に基づき、県が検査実施主体となるて
いる2検体26項目を含む。

4.3 一般依頼検査項目別手数料

名 称		単 価 (円)	検査件数 (件)			金 額 (円)			
			感 染 症 部	健 康 科 学 部	計				
水質検査料	簡易な方法による検査	1成分	520	0	9	9	4,680		
		1成分	3,200	0	121	121	387,200		
	精密な方法による検査	1試料	5,800	0	10	10	58,000		
		1成分	4,000	0	119	119	476,000		
	PT-GC/MS, PT-GC HS-GC/MS による検査	1試料	8,400	0	37	37	310,800		
		1成分	3,100	0	115	115	356,500		
	固相抽出-GC/MS 又は 固相抽出-GC による検査	1試料	10,500	0	32	32	336,000		
		1成分	6,000	0	274	274	1,644,000		
	固相抽出-HPLC による検査	1試料	10,500	0	88	88	924,000		
		1成分	7,100	0	150	150	1,065,000		
	溶媒抽出-GC/MS 又は 溶媒抽出-GC による検査	1試料	10,500	0	46	46	483,000		
		1成分	7,000	0	20	20	140,000		
	細菌学的検査	1種目	3,700	5	0	5	18,500		
	一括検査	水道法施行規則規定検査	1試料	5,200	0	10	52,000		
温泉試験料	中 分 析 試 験	1件	129,000	0	9	9	1,161,000		
	可燃性天然ガス定量試験	1件	19,000	0	7	7	133,000		
理化学的検査料	一般理化学的検査	食品検査	定量試験	1成分	4,700	0	6	6	28,200
		容器、包装、玩具等の検査	定量試験	1成分	4,700	0	5	5	23,500
		医薬品、衛生材料、製薬原料、化粧品等の検査	定量試験	1成分	6,000	0	2	2	12,000
	特殊理化学的検査	特殊有機化学物質定量試験	1成分	40,000	0	6	6	240,000	
生物学的検査料	微生物の検査	食品アレルゲン試験	1項目	41,000	0	3	3	123,000	
		定量試験	1種目	5,100	37	0	37	188,700	
		遺伝子増幅検査	1種目	25,000	75	0	75	1,875,000	
	ウイルスの検査	特定遺伝子検査	1遺伝子	11,000	104	0	104	1,144,000	
		遺伝子増幅検査	1種目	32,000	35	0	35	1,120,000	
		特定遺伝子検査	1遺伝子	11,000	17	0	17	187,000	
合 計					273	1,069	1,342	12,491,080	

5 調査研究課題一覧表

研 究 部	調 査 研 究 課 題	実施概要
感染症部	(1) ダニ媒介感染症のゲノム解析体制の整備に関する研究 (2) ヒト及び食品由来細菌の薬剤耐性状況サーベイランス強化に資する研究	p. 13 参照 p. 14 ""
健康科学部	(1) LC-MS/MSを用いた自然毒成分の検査方法の確立 (2) 医薬品試験における試験条件変更の影響について (3) LC-MS/MSを用いた動物用医薬品の迅速分析法の開発 (4) 水道水及び原水中の逐次改正対象項目及び要検討項目等の分析法に関する研究 (1) (5) 水道水及び原水中の逐次改正対象項目及び要検討項目等の分析法に関する研究 (2) -GC/MSやGC/MS/MSによる分析技術での対応-	p. 21 参照 p. 22 " p. 22 " p. 22 " p. 23 "

6 試験検査項目等一覧表

研究部	試験検査項目	実施概要
感染症部	(1) 細菌等の検査	
	ア 侵襲性肺炎球菌感染症感染源調査(厚生労働省感染症流行予測調査)	p. 14 参照
	イ 結核菌の検査	p. 14 //
	ウ 腸管出血性大腸菌感染症に係る依頼検査	p. 14 //
	エ 食中毒(疑)発生時の細菌検査	p. 14 //
	オ クドア(寄生虫)が原因と疑われる食中毒(疑)の検査	p. 15 //
	カ 輸入ナチュラルチーズのリストリア菌の検査	p. 15 //
	キ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症に係る依頼検査	p. 15 //
	ク 侵襲性肺炎球菌感染症に係る依頼検査	p. 15 //
	ケ CRE 感染症に係る依頼検査	p. 15 //
	コ その他の細菌等の依頼検査	p. 15 //
	(2) ウィルス及びリケッチアの検査	
	ア 新型コロナウィルスのゲノム解析	p. 15 //
	イ インフルエンザ集団感染事例等におけるインフルエンザウィルスの検査	p. 16 //
	ウ 感染症発生動向調査におけるインフルエンザウィルスの検査	p. 16 //
	エ 令和6年度新型インフルエンザウィルス系統調査・保存事業(厚生労働省への協力事業)	p. 16 //
	オ 令和6年度新型インフルエンザウィルスの出現監視を目的とした感染源調査(厚生労働省感染症流行予測調査)	p. 16 //
	カ 令和6年度日本脳炎感染源調査(厚生労働省感染症流行予測調査)	p. 16 //
	キ 令和6年度ロタウィルス感染症感染源調査(厚生労働省感染症 流行予測調査)	p. 17 //
	ク 蚊媒介感染症の検査	p. 17 //
	ケ 感染症発生動向調査における病原体検査(インフルエンザウィルスを除く)	p. 17 //
	コ 日本紅斑熱及びつつが虫病リケッチアの検査	p. 17 //
	サ 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)ウィルスの検査	p. 17 //
	シ A型及びE型肝炎ウィルスの検査	p. 17 //
	ス HIVの確認検査	p. 18 //
セ 市販生食用かきのノロウイルス検査	p. 18 //	
ソ ウィルスによる集団胃腸炎事例の感染経路、感染源調査	p. 18 //	
タ 麻しんウィルスの検査	p. 18 //	
チ 風しんウィルスの検査	p. 18 //	
ツ 急性弛緩性麻痺の病原体検査	p. 18 //	
テ 急性脳炎の病原体検査	p. 18 //	
ト 令和6年度新型コロナウィルス下水サーベイランス(厚生労働省感染症流行予測調査)	p. 18 //	
(3) 県感染症情報センター		

	ア 感染症発生動向調査週報患者情報分析	p. 19 参照
	イ 感染症発生動向調査月報患者情報分析	p. 19 //
	ウ 感染症発生動向調査年報患者情報分析	p. 19 //
	エ インフルエンザ情報センターからの情報提供	p. 19 //
(4) 外部精度管理		p. 20 //
(5) 受託及び共同研究		
	感染症媒介蚊発生動向調査	p. 20 //

7 普及啓発活動一覧表

7.1 研究・調査発表会

令和元年度から、兵庫県公衆衛生協会中央研究会を当研究所の研究・調査発表会と位置づけており、発表している。

- (1) 発表日：令和 6 年 11 月 30 日
- (2) 場 所：兵庫県医師会館
- (3) 演 題：「兵庫県における梅毒の届出状況の分析」
感染症部 村上 修子

7.2 体験型科学教室「夏だ！サイエンスDEチャレンジ」

令和 6 年度は、県民に開かれた研究所を目指して、小・中学生の夏休みの自由研究に役立ててもらうため、科学実験を行う体験型科学教室を開催した。

- (1) 開催日：令和 6 年 8 月 7 日
- (2) テーマ：
 - ①微生物を見てみよう！
 - ・手の汚れを見てみよう
 - ・顕微鏡で観察しよう
 - ②身のまわりの水について調べてみよう！
 - ・硬水と軟水の違いを調べよう
 - ・いろんな水を測ってみよう

7.3 「サマーチャレンジ」夏休み自宅科学教室

当研究所をよりもっと身近に感じていただき、小・中学生の夏休みの自由研究に役立ててもらうために、ホームページに実験テキストを掲載した。学習結果を送付いただいた方には、修了証等をお送りした。

- (1) 受付期間：令和 6 年 7 月 22 日～8 月 30 日
- (2) テキスト：
 - ①小麦からガムを作ろう
 - ②納豆菌を阻止できるかな？
 - ③微生物を培養しよう
 - ④夏の大敵！蚊について調べてみよう
 - ⑤結晶を作ってみよう
 - ⑥感染症について調べてみよう
 - ⑦ビタミン C を測ろう

7.4 業務紹介パネル展示

当研究所の業務を地域の方に知ってもらい身近に感じていただくために研究所紹介、各部の業務紹介、鳥インフルエンザ、ダニ媒介感染症、放射能測定、花粉飛散調査についてパネル展示を行った。

- (1) 開催日：令和 6 年 9 月 7 日
- (2) 場 所：ウェルネージュかこがわ

7.5 兵庫県感染症健康危機対応研修会

広域的な新興感染症等の発生時において迅速な対応が行えるよう、兵庫県内の保健所や地方衛生研究所等との検査や疫学調査等における連携体制を強化するため、オン

ライン研修会を行った。

(1)開催日：令和7年3月4日（火）15:20～17:30

(2)講 演：感染症の危機管理～地域連携の強化に向けて～

　　国立感染症研究所感染症危機管理研究センター センター長 斎藤智也

(3)参加者：県及び政令市・中核市保健所、地方衛生研究所等の関係職員 95名

7.6 県職員の研修指導

研修・講習名	実施期間 年月日	実施担当部	実 施 課 題	実施対象者 所属機関等	実施場所	備 考
令和6年度 健康福祉事務所検査業務担当者新任研修（後期）	R6. 12. 16 ～20	危機管理部 感染症部 健康科学部	当研究所の概要、 GLP概論、疫学概論、 花粉調査実習、細菌 検査実習、ウイルス 検査実習、水道水検 査概要、食品検査概 要	加古川健康 福祉事務所 1名	健 康 科 学 研 究 所	疾 病 对 策 課 主 催
令和6年度 健康福祉事務所検査業務担当者研修（メニュー研修）	R7. 1. 24	健康科学部	春季の花粉調査に ついて一対象飛散 花粉の形態と観測 について	宝塚、加古 川、龍野、 豊岡健康福 祉事務所検 査室勤務職 員 5名	健 康 科 学 研 究 所	疾 病 对 策 課 主 催

7.7 県職員以外の研修指導

研修・講習名	実施期間 年月日	実施担当部	実 施 課 題	実施対象者 所属機関等	実施場所	備 考
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症検査	R7. 6. 14	感染症部	カルバペネム耐性腸 内細菌目細菌感染症 検査の概要	あかし保 健所 3名	健 康 科 学 研 究 所	直 接 依 頼
神戸常盤大学見学プログラム	R6. 6. 19	危機管理部 感染症部 健康科学部	研究所の概要、各部 の業務内容、施設見 学、意見交換	大 学 生 2 名，教 員 1名	健 康 科 学 研 究 所	直 接 依 頼
WKC サマースクール	R6. 8. 19	危機管理部 感染症部 健康科学部	研究所の概要、各部 の業務内容、施設見 学、意見交換	参 加 者，職 員 15 名 医務課職 員 2名	健 康 科 学 研 究 所	直 接 依 頼
兵庫県立大学フィールドワーク	R6. 8. 20	危機管理部 感染症部 健康科学部	当研究所の概要、フ リートーク、施設見 学	兵 庫 県 立 環 境 人 間 学 部 学 生 10 名，教 員 1名	健 康 科 学 研 究 所	直 接 依 頼

残留農薬試験の実地研修	R6. 8. 20 ～21	健康科学部	農産物中の残留農薬試験概要及び実習	県内衛生研究所職員 2名	健康科学研究所	直接依頼
獣医学生インターンシップ	R6. 8. 21	危機管理部 感染症部 健康科学部	当研究所の概要, 細菌感染症概要及び実習, ウイルス感染症概要及び実習, 健康科学部概要	全国大学獸医学部生 3名	健康科学研究所	生活衛生課依頼
体験型家畜衛生・公衆衛生実習	R6. 8. 28 R6. 9. 4	危機管理部 感染症部 健康科学部	当研究所の概要, 細菌感染症概要及び実習, ウイルス感染症概要及び実習, 健康科学部概要及び実習	全国大学獸医学部生 7名	健康科学研究所	生活衛生課依頼
検査技術向上のための研修	R6. 10. 10	危機管理部 感染症部 健康科学部	ウイルス実習	西宮保健所職員 2名	健康科学研究所	西宮市保健所依頼
令和6年度初任者向け検査技術向上研修会	R6. 12. 16 ～20	危機管理部 感染症部 健康科学部	当研究所の概要, GLP概論, 疫学概論, 花粉調査実習, 細菌検査実習, ウイルス検査実習, 水道水検査概要, 食品検査概要	西宮保健所職員 1名	健康科学研究所	当研究所主催
食品衛生行政機関に関する相互研修	R6. 12. 18	危機管理部 感染症部 健康科学部	研究所の概要, 感染症部概要, 健康科学部概要, 施設見学	神戸検疫所職員 3名 健康福祉事務所職員 2名	健康科学研究所	生活衛生課依頼

7.8 研修会での講演等

研修会等の名称	年月日	担当者	講演等の内容	主催者	場所
令和6年度健康福祉事務所検査室長会議	R6.5.30	雑賀 祥美	GLP業務について	疾病対策課	兵庫県庁
一般社団法人日本下水サーベイラントス協会 第3回講演会	R6.8.2	荻 美貴	兵庫県における下水中の新型コロナウイルス調査・解析と今後の方向性について	一般社団法人日本下水サーベイラントス協会	TFT(東京ファッショントラウン)
令和6年度結核予防技術者地区別講習会	R6.8.23	辻田 久美子	当研究所の結核菌検査について	疾病対策課	兵庫県民会館
令和6年度兵庫県水道水質管理連絡協議会	R6.9.6	矢野 美穂	令和5年度外部精度管理実施結果(講評)	生活衛生課	兵庫県民会館
令和6年度獣医学術近畿地区学会	R6.9.22	吉岡 直樹	兵庫県における自然毒による中毒事例について	近畿地区連合獣師会	大阪公立大学
県立大学環境人間学部・県立健康科学研究所合同研究発表会	R6.11.5	島本 章義	兵庫県における次世代シーケンサーを用いた原因不明集団胃腸炎の解析事例	県立大学環境人間学部・県立健康科学研究所	県立大学環境人間学部
ペストコントロール業従事者研修会	R6.11.20	押部 智宏	感染症媒介蚊の生態と防除	兵庫県ペストコントロール協会	神戸市産業振興センター
微生物学講義	R6.12.13	押部 智宏	インフルエンザ	神戸大学医学部	神戸大学医学部

令和6年度西部ブロック健康福祉事務所等検査業務担当者研修会	R7.1.10	吉岡 直樹	健康科学研究所における食品添加物検査について	あかし保健所	あかし保健所
令和6年度東部ブロック健康福祉事務所等検査業務担当者研修会	R7.3.7	吉岡 直樹	兵庫県における自然毒による中毒事例について	豊岡健康福祉事務所	豊岡健康福祉事務所
県立大学理学部・大学院理学研究科・先端医療工学研究所・県立健康科学研究所合同研究発表会	R7.2.13	今井 史	米に含まれるカドミウムの分析について	県立大学理学部・大学院理学研究科・先端医療工学研究所・県立健康科学研究所	県立大学先端医療工学研究所
令和6年度兵庫県水道水質検査精度管理委員会	R7.3.17	矢野 美穂	令和6年度外部精度管理実施結果（講評）	生活衛生課	兵庫県庁

7.9 施設見学等

年月日	実施担当部	実施内容等	実施対象者 所属機関等	備 考
R6. 5. 23	感染症部 健康科学部	設備等の見学	保健医療部総務課職員 5名	保健医療部総務課 依頼
R6. 6. 14	感染症部	設備等の見学	あかし保健所職員 3名	あかし保健所依頼
R6. 6. 19	感染症部 健康科学部	各部における 業務の紹介, 設備等の見学	神戸常盤大学保健学部 医療検査学科 学生 1 名 教員 1名	神戸常盤大学依頼
R6. 7. 1	感染症部 健康科学部	設備等の見学	兵庫県立大学看護学部 教授 1名	兵庫県立大学依頼
R6. 7. 24	感染症部 健康科学部	設備等の見学	保健医療部次長 1名	保健医療部依頼
R6. 8. 19	感染症部 健康科学部	各部における 業務の紹介, 設備等の見学	WKC サマースクール 参加者, 職員 15 名 医務課職員 2名	医務課依頼
R6. 8. 20	感染症部 健康科学部	各部における 業務の紹介, 設備等の見学	兵庫県立大学県境人間 学部フィールドワーク 学生 10 名, 教員 1名	兵庫県立大学依頼
R6. 8. 21	感染症部 健康科学部	各部における 業務の紹介, 設備等の見学	獣医学学生インター ンシップ全国大学獣医 学部生 3名	生活衛生課依頼
R6. 8. 28	感染症部 健康科学部	各部における 業務の紹介, 設備等の見学	体験型家畜衛生・公衆 衛生実習 全国大学 獣医学部生 3名	生活衛生課依頼
R6. 9. 4	感染症部 健康科学部	各部における 業務の紹介, 設備等の見学	体験型家畜衛生・公衆 衛生実習 全国大学 獣医学部生 4名	生活衛生課依頼
R6. 9. 4	健康科学部	施設等の見学	食肉衛生検査センター 職員 1名	生活衛生課依頼
R6. 12. 18	感染症部 健康科学部	施設等の見学	神戸検疫所職員 2名, 加古川健康福祉事務所 職員 2名	生活衛生課依頼
R6. 12. 18	感染症部 健康科学部	各部における 業務の紹介, 施設等の見学	加古川健康福祉事務所 職員 1名 西宮保健所職員 1名	疾病対策課依頼

7.10 委員会の委員等の就任

委員会等の名称	委嘱機関名	職員名
ジェネリック医薬品・バイオシミラー品質情報検討会 WG 委員	厚生労働省	安井 麻姫
神戸港健康危機管理対策委員会委員	神戸検疫所	今井 雅尚
全国衛生化学技術協議会幹事	全国衛生化学技術協議会	藤田 裕代
地研全国協議会近畿支部ウイルス部会役員	地研全国協議会近畿支部 ウイルス部会	島本 章義
地研全国協議会近畿支部疫学情報部会役員	地研全国協議会近畿支部 疫学情報部会	庄田 徹
地研全国協議会近畿支部細菌部会役員	地研全国協議会近畿支部 細菌部会	辻田 久美子
地研全国協議会近畿支部自然毒部会長	地研全国協議会近畿支部 自然毒部会	今井 雅尚
地研全国協議会近畿支部自然毒部会世話人	地研全国協議会近畿支部 自然毒部会	吉岡 直樹
地研全国協議会近畿支部理化学部会役員	地研全国協議会近畿支部 理化学部会	吉岡 直樹
地研全国協議会リケッチアレンス委員	地研全国協議会	押部 智宏
地研全国協議会アルボウイルスアレンス委員	地研全国協議会	押部 智宏
ひょうご社会医学系専門医研修プログラム 管理委員	兵庫県（保健医療部総務課）	今井 雅尚
兵庫県精度管理専門委員	兵庫県（医務課）	大岡 徹彦
兵庫県水道水質管理連絡協議会 精度管理委員会委員長	兵庫県（生活衛生課）	藤田 裕代
兵庫県環境審議会温泉部会幹事	兵庫県（環境部環境政策課）	今井 雅尚
兵庫県公衆衛生協会常任理事	兵庫県公衆衛生協会	今井 雅尚
兵庫県感染症対策連携協議会委員	兵庫県（保健医療部疾病対策課）	今井 雅尚
兵庫県感染症対策連携協議会予防計画部会 委員	兵庫県（保健医療部疾病対策課）	今井 雅尚
ひょうご科学技術協会総合企画委員	公益財団法人 ひょうご科学技術協会	今井 雅尚
加古川中央市民病院臨床研修管理委員会委員	加古川中央市民病院	今井 雅尚

兵庫県保健所検査技師会顧問	兵庫県保健所検査技師会	今井 雅尚
---------------	-------------	-------

7.11 非常勤講師・客員研究員等の就任

名 称	科目・研究テーマ等	委嘱機関	期 間	職員名
医学研究科客員准教授	感染症フィールド学	神戸大学	R6.4～ R7.3	押部 智宏
医学研究科医学研究員	食品中に混入した毒劇物の分析法に関する法医中毒学的研究	神戸大学 大学院	R6.4～ R7.3	吉岡 直樹

8 学会発表一覧表

演題名	発表者名	学會名
感染症部		
兵庫県内において重症例・致死例から検出されるコクサッキーウィルス A 群の解析	荻 美貴 (藤本 嗣人, 押部 智宏, 大岡 徹彦)	第 98 回日本感染症学会学術講演会・第 72 回日本化学療法学会総会合同学会, 2024. 6, 神戸市
兵庫県における下水中の A 型インフルエンザウイルスの定量調査	庄田 徹 (荻 美貴, 押部 智宏, 大岡 徹彦ほか)	令和 6 年度日本獣医公衆衛生学会近畿地区学会 2024. 9, 堺市
兵庫県における次世代シーケンサーを用いた原因不明集団胃腸炎の解析事例	島本 章義 (荻 美貴, 大岡 徹彦ほか)	令和 6 年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部ウイルス部会研究会 2024. 10, 尼崎市
健康科学部		
LC-MS/MS を用いた残留農薬一斉分析法における移動相の影響	赤松 成基	日本食品化学学会第 30 回総会・学術大会, 2024. 5, 東京都
兵庫県における温泉資源保護のための科学的アプローチ	矢野 美穂	令和 6 年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部理化部会研修会, 2024. 11, 京都市
兵庫県における自然毒による食中毒の発生に起因した分析法の開発について	吉岡 直樹	第 61 回全国衛生化学技術協議会年会, 2024. 11, 堺市
安定同位体等を用いた内部標準法での残留動物用医薬品検査について	安井 麻姫 (赤松 成基, 吉岡 直樹, 藤田 裕代)	第 61 回全国衛生化学技術協議会年会, 2024. 11, 堺市
紙製の食品用容器包装からの PFAS 検出状況	松村 益代 (藤田 裕代)	第 61 回全国衛生化学技術協議会年会, 2024. 11, 堺市
ツキヨタケによる食中毒事例と溶液保存におけるパラフィルムの効果について	吉岡 直樹 (泉村 康人, 藤田 裕代)	令和 6 年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部自然毒部会研究発表会, 2024. 11, 兵庫県
内部標準法を用いた動物用医薬品分析法の検討と検出事例	安井 麻姫 (赤松 成基, 吉岡 直樹, 藤田 裕代)	第 7 回 (公社) 日本食品衛生学会近畿ブロック勉強会, 2025. 2, 大阪市

9 論文等発表抄録

9.1 他 誌

[和文発表]

CODEHOP VP1 RT-semi-nested PCRの原法と変法によるエンテロウイルスおよびライノウイルス遺伝子検出の比較検討

IASR Vol. 45 p226-228: 2024年12月号
地方独立行政法人

大阪健康安全基盤研究所

中田 恵子

前田 和穂

三好 龍也

荻 美貴

谷本 佳彦

大西 優伽

松浦 侑輝

山本 紗也

千葉 翔子

堺市衛生研究所

兵庫県立健康科学研究所

神戸市健康科学研究所

奈良県保健研究センター

気管支喘息急性増悪で人工呼吸管理を要した幼児例からのエンテロウイルス D68 の検出—小児喘息発作入院サーベイランス

IASR Vol. 46 p17-19 : 2025年1月号

埼玉医科大学総合医療センター

小児科

村越 由佳

林 亮

是松 聖悟

高度救急救命センター

小児救急集中治療部門

長田 浩平

櫻井 淑男

兵庫県立健康科学研究所

感染症部

荻 美貴

国立感染症研究所

真菌部

藤本 嗣人

近畿ブロックの 5 地方衛生研究所において、エンテロウイルス(EV)・ヒトライノウイルス(HRV)共通遺伝子検査法である CODEHOP VP1 RT-semi-nested PCR 法の原法、変法及び RT 試薬と PCR 試薬の組み合わせの結果を比較した。

原法と比較して変法は、多種の EV・HRV の VP1 領域の遺伝子を検出する検査法として高感度であり、今回の試験の結果、PCR 試薬として EmeraldAmp PCR Master Mix の使用が感度の向上に貢献していることが示唆された。RT 試薬は、Prime Script II 1st strand cDNA Synthesis Kit (Random Hexamer 使用) が、変法で用いている PrimeScript RT reagent Kit と同程度の感度があり、代替可能であると考えられた。

非特異反応と思われるバンドが検出されることもあることから、検査の正確性を求めるためには、EV・HRV 共通 VP4-VP2 部分領域の検査結果を併せて評価する必要がある。

Enterovirus-D68 (EV-D68) は、2015 年の本邦における EV-D68 エピデミック時に、小児気管支喘息の急性増悪入院患者数や人工呼吸管理患者数が増加して以降、注目され続けている。

気管支喘息急性増悪において人工呼吸管理を要した小児例から EV-D68 が検出されたため報告する。FilmArray により human rhinovirus/enterovirus が陽性となり、EV 型別を実施したところ、2022 年にカナダで検出された EV-D68 (Accession No. PP474890) と VP1 領域の部分配列が 99% 一致した。今回検出された EV-D68 は、2024 年 8~9 月にイタリア北部で症例が急増したことが報告されている B3 系統であった。喘息に対する治療を実施し、入院 19 日目に退院となった。

今後、EV-D68 に関連した気管支喘息の急性増悪や AFM の増加を認めないか、小児喘息発作入院サーベイランスを介して、注意深い観察を実施していく予定である。

9.2 兵庫県立健康科学研究所研究報告
第6号 令和6年度（2024年度）

【ノート】

兵庫県における胃腸炎ウイルスの検出状況と遺伝子解析（2019/20～2021/22 シーズン）

島本 章義, 萩 美貴, 押部 智宏, 大岡 徹彦

LC-MS/MS を用いた残留農薬一斉分析法における移動相の影響

赤松 成基, 後藤 操, 今井 史, 藤田 裕代

【資料】

兵庫県における水道水質の外部精度管理実施結果（2021年度：TOC, 2022年度：亜硝酸態窒素及び塩化物イオン）

矢野 美穂, 松村 益代, 風見 真紀子, 藤田 裕代

日本薬局方試験法におけるクロマトグラフィー条件の調整～シルニジピン錠溶出性～

赤松 成基, 藤田 裕代

10 検査結果等

10.1.1 全数把握対象疾病の疾病別年間累積患者数（令和6年）(令和7年3月31日現在の把握数)

	疾病名	計	疾病名	計
一 類 感 染 症	エボラ出血熱	0	日本紅斑熱	17
	クリミア・コンゴ出血熱	0	日本脳炎	0
	痘そう	0	ハンタウイルス肺症候群	0
	南米出血熱	0	Bウイルス病	0
	ペスト	0	鼻疽	0
	マールブルグ病	0	ブルセラ症	1
二 類 感 染 症	ラッサ熱	0	ベネズエラウマ脳炎	0
	急性灰白髄炎	0	ヘンドラウイルス感染症	0
	結核	761	発しんチフス	0
	ジフテリア	0	ボツリヌス症	0
	重症急性呼吸器症候群 ^A	0	(マラリア	2
	中東呼吸器症候群 ^B	0)野兎病	0
三 類 感 染 症	鳥インフルエンザ(H5N1)	0)ライム病	1
	鳥インフルエンザ(H7N9)	0	リッサウイルス感染症	0
	コレラ	0	リフトバレー熱	0
	細菌性赤痢	1	類鼻疽	0
	腸管出血性大腸菌感染症	141	レジオネラ症	92
	腸チフス	5	レプトスピラ症	3
四 類 感 染 症	パラチフス	0	ロッキー山紅斑熱	0
	E型肝炎	3	アメーバ赤痢	34
	ウエストナイル熱 ^C	0	ウイルス性肝炎 ^F	12
	A型肝炎	2	カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症	93
	エキノコックス症	0	急性弛緩性麻痺 ^G	2
	エムボックス	0	急性脳炎 ^H	23
五 類 感 染 症	黄熱	0	クリプトスピリジウム症	0
	オウム病	0	クロイツフェルト・ヤコブ病	10
	オムスク出血熱	0	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	66
	回帰熱	0	後天性免疫不全症候群	27
	キヤサヌル森林病	0	ジアルジア症	2
	Q熱	0	侵襲性インフルエンザ菌感染症	31
(1) (-)	狂犬病	0	侵襲性髄膜炎菌感染症	1
	コクシジオイデス症	0	侵襲性肺炎球菌感染症	136
	ジカウイルス感染症	0	水痘(入院例)	20
	重症熱性血小板減少症候群 ^D	4	先天性風しん症候群	0
	腎症候性出血熱	0	梅毒	419
	西部ウマ脳炎	0	播種性クリプトコックス症	9
ニ パ ウ イ ル ス 感 染 症	ダニ媒介脳炎	0	破傷風	3
	炭疽	0	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	0
	チクングニア熱	0	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	3
	つつが虫病	4	百日咳	208
	デング熱	7	風しん	0
	東部ウマ脳炎	0	麻しん	4
	鳥インフルエンザ ^E	0	薬剤耐性アシネットバクター感染症	0
	ニパウイルス感染症	0		

*A病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。 *B病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。 *Cウエストナイル脳炎を含む。 *D病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。 *E H5N1及びH7N9を除く。 *F E型肝炎及びA型肝炎を除く。 *G急性灰白髄炎を除く。 *Hウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

10.1.2 全数把握対象疾病の疾病別週別患者数（届出のあった疾病）（令和6年）

疾病名		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27
二類感染症	結核	5	12	13	9	6	21	16	13	18	11	16	19	20	13	17	13	21	18	20	11	17	16	21	13	8	19	11
三類感染症	細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸チフス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
四類感染症	E型肝炎 A型肝炎 重症熱性血小板減少症候群 ^A つつが虫病 デング熱 日本紅斑熱 ブルセラ症 マラリア ライム病 レジオネラ症 レブトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
五類感染症	アーベー赤痢 ウイルス性肝炎 ^B カルバペネム耐性腸内細菌感染症 急性弛緩性麻痺 ^C 急性脳炎 ^D クロイツフェルト・ヤコブ病 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 後天性免疫不全症候群 ジアルジア症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 水痘(入院例) 梅毒 播種性クリプトコックス症 破傷風 パンコマイシン耐性腸球菌感染症 百日咳 麻疹	0	1	3	0	0	0	1	1	2	0	0	1	1	0	1	0	0	0	1	1	0	0	1	0	1	0	0
疾病名		28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	計	
二類感染症	結核	14	16	12	16	16	12	16	17	13	15	11	18	17	18	7	15	13	9	18	19	19	15	14	13	11	761	
三類感染症	細菌性赤痢 腸管出血性大腸菌感染症 腸チフス	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
四類感染症	E型肝炎 A型肝炎 重症熱性血小板減少症候群 ^A つつが虫病 デング熱 日本紅斑熱 ブルセラ症 マラリア ライム病 レジオネラ症 レブトスピラ症	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
五類感染症	アーベー赤痢 ウイルス性肝炎 ^B カルバペネム耐性腸内細菌感染症 急性弛緩性麻痺 ^C 急性脳炎 ^D クロイツフェルト・ヤコブ病 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 後天性免疫不全症候群 ジアルジア症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 侵襲性髄膜炎菌感染症 侵襲性肺炎球菌感染症 水痘(入院例) 梅毒 播種性クリプトコックス症 破傷風 パンコマイシン耐性腸球菌感染症 百日咳 麻疹	0	0	2	4	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	34

*^A病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。 *^BE型肝炎及びA型肝炎を除く。 *^C急性灰白髄炎を除く。 *^Dウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

(令和7年3月31日現在の把握数)

10.2 週報対象疾病の疾病別週別患者数（令和6年）

疾病名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
インフルエンザ ^A	1962	2263	3858	4407	5160	5280	3981	2698	1896	1550	1356	1103	951	490	264	172	116	50
新型コロナウイルス感染症 ^B	964	1303	1821	2091	2177	1810	1196	1023	956	878	911	842	830	715	670	601	682	362
RSウイルス感染症	2	3	10	10	19	11	19	25	35	46	58	102	121	144	222	265	292	233
咽頭結膜熱	133	154	123	136	112	117	91	72	122	107	84	73	64	73	55	56	85	29
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	189	286	405	394	416	468	332	308	380	373	419	343	302	274	274	371	508	268
感染性胃腸炎	342	728	1066	1211	1081	1174	843	969	981	1089	1022	769	773	659	704	749	888	476
水痘	24	7	19	26	15	19	10	18	3	13	12	10	12	20	13	23	19	7
手足口病	19	20	23	29	23	25	30	28	39	40	24	40	37	31	44	88	81	93
伝染性紅斑	0	2	1	4	1	2	2	1	1	4	3	4	5	3	4	5	2	1
突発性発しん	13	27	31	19	13	13	15	26	27	23	24	26	27	35	33	31	41	22
ヘルパンギーナ	5	2	6	4	10	1	3	3	9	5	6	4	4	3	10	10	7	7
流行性耳下腺炎	1	5	5	2	5	2	5	4	7	3	1	3	3	2	2	10	7	3
急性出血性結膜炎	0	1	0	1	1	0	0	0	1	4	1	0	0	0	1	1	0	0
流行性角結膜炎	16	31	20	15	13	15	15	9	14	16	15	9	13	29	12	15	14	7
細菌性齶膜炎 ^C	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	1	0	0
無菌性齶膜炎	1	0	1	1	0	0	0	0	2	0	0	1	0	2	0	1	1	1
マイコプラズマ肺炎	1	2	5	2	3	2	0	2	1	2	0	3	1	3	1	5	4	1
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0
疾病名	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
インフルエンザ ^A	46	35	28	23	16	21	20	43	49	54	52	66	51	43	44	28	28	30
新型コロナウイルス感染症 ^B	508	519	544	439	558	533	604	804	1264	2136	2597	3057	2771	2240	1210	1400	1060	835
RSウイルス感染症	187	255	233	225	229	174	161	171	261	318	285	268	274	232	66	65	98	87
咽頭結膜熱	75	80	87	86	98	97	66	79	74	52	36	47	56	40	23	38	49	26
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	400	538	505	548	465	470	401	401	401	314	220	205	199	192	89	154	189	167
感染性胃腸炎	765	986	1085	973	852	906	728	758	693	618	462	478	428	447	194	415	430	464
水痘	17	14	15	26	18	28	22	18	17	26	11	16	18	16	5	13	19	8
手足口病	139	244	486	737	865	1111	1435	1731	2103	2444	1577	1503	1194	1007	343	471	733	858
伝染性紅斑	2	2	2	4	4	1	4	14	4	4	4	4	3	1	5	1	4	7
突発性発しん	37	48	28	37	46	33	40	38	40	29	20	29	41	35	14	25	33	27
ヘルパンギーナ	7	49	69	86	106	143	174	241	297	310	185	163	110	91	23	41	48	50
流行性耳下腺炎	5	11	5	10	14	6	12	12	12	12	15	5	1	5	5	4	3	1
急性出血性結膜炎	0	1	2	0	3	0	1	1	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0
流行性角結膜炎	22	20	24	32	46	28	27	34	14	20	9	28	22	23	8	22	16	10
細菌性齶膜炎 ^C	0	2	0	5	0	0	0	5	0	0	0	0	1	2	0	0	0	0
無菌性齶膜炎	0	1	0	1	2	0	1	2	1	1	0	1	1	2	1	2	1	3
マイコプラズマ肺炎	7	1	6	1	4	3	8	6	11	24	25	31	26	17	33	29	35	45
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
疾病名	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50	51	52	計	
インフルエンザ ^A	39	35	80	104	142	115	156	201	173	310	333	840	1666	3838	9237	14656	70159	
新型コロナウイルス感染症 ^B	619	584	505	426	323	312	259	278	202	227	220	279	325	462	663	951	49546	
RSウイルス感染症	78	59	49	37	31	30	31	23	24	37	34	18	41	44	54	56	5852	
咽頭結膜熱	25	27	27	25	21	12	19	19	17	22	32	42	45	33	54	51	3266	
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	222	184	178	216	212	163	222	172	152	215	171	210	225	212	236	236	15394	
感染性胃腸炎	518	419	421	459	450	410	439	512	420	550	524	636	762	778	849	785	36138	
水痘	14	14	13	13	20	12	17	22	16	19	37	31	37	20	36	19	917	
手足口病	897	866	867	770	891	710	646	538	411	330	234	218	158	111	80	37	27459	
伝染性紅斑	9	2	34	4	20	11	12	13	16	23	13	28	22	29	33	37	423	
突発性発しん	34	22	32	34	37	22	45	25	30	28	21	25	34	23	25	26	1509	
ヘルパンギーナ	34	26	24	26	33	20	18	10	10	4	6	6	3	0	1	3	2516	
流行性耳下腺炎	7	7	4	7	3	6	7	4	1	2	4	4	4	4	4	4	280	
急性出血性結膜炎	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	0	1	7	1	33	
流行性角結膜炎	9	15	15	22	21	14	26	20	11	26	17	25	37	39	34	31	1045	
細菌性齶膜炎 ^C	0	2	0	3	1	0	0	0	0	1	0	1	2	0	1	1	32	
無菌性齶膜炎	4	2	1	0	1	2	1	1	1	0	0	1	2	0	0	2	49	
マイコプラズマ肺炎	30	24	36	38	29	34	50	43	37	40	22	27	33	18	16	14	841	
クラミジア肺炎(オウム病を除く)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるもの)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	6	

*A 鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 *B 病原体がベータコロナウイルス属のコロナウイルス(令和二年一月に中華人民共和国から世界保健機関に対して、人に伝染する能力を有することが新たに報告されたものに限る。)であるものに限る。 *C インフルエンザ菌、齶膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

10.3 月報対象疾患の疾病別月別患者数（令和6年）

疾病名	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
性器クラミジア感染症	117	110	118	114	135	137	148	139	148	113	95	90	1464
性器ヘルペスウイルス感染症	29	27	28	29	34	23	29	31	25	32	32	33	352
尖圭コンジローマ	15	24	22	29	30	25	32	27	24	28	25	16	297
淋菌感染症	39	30	28	37	32	31	40	27	34	39	22	37	396
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	46	49	51	43	54	48	63	50	32	50	52	47	585
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	1	0	0	2	2	1	3	0	0	0	3	1	13
薬剤耐性緑膿菌感染症	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2	

(令和7年3月31日現在の把握数)

10.4 結核菌の同定試験

健康福祉事務所 (保健所)	件数		
	遺伝子型別	薬剤感受性試験	BCG鑑別検査
芦屋	1	0	0
伊丹	0	0	0
宝塚	0	0	0
加古川	8	0	0
加東	4	0	1
龍野	8	1	0
赤穂	6	1	0
中播磨	2	0	0
豊岡	7	0	0
朝来	0	0	0
丹波	17	0	0
洲本	0	0	0
尼崎市	39	0	0
西宮市	0	0	0
明石市	13	0	0
合計	105	2	1

薬剤感受性試験

	件数
耐性なし	1
耐性あり	1
合計	2

検査対象薬剤:

SM(硫酸ストレプトマイシン)
EB(塩酸エタンプトール)
KM(硫酸カナマイシン)
INH(イソニアジド)
RFP(リファンピシン)
RBT(リファブチン)
LVFX(レボフロキサシン)
CPFX(シプロフロキサシン)

BCG 鑑別検査結果

	件数
BCG株	1
結核菌株	0
合計	1

10.5 侵襲性肺炎球菌感染症に係る依頼検査

健康福祉事務所	件数	血清型
宝塚	1	3
丹波	1	15A/15F
加古川	1	23A
加古川	1	15A/15F
宝塚	1	3
伊丹	1	10A

10.6 腸管出血性大腸菌感染症に係る依頼検査

健康福祉事務所(保健所)	件数		
	O157	O111	その他の血清型
芦屋	1	0	0
宝塚	4	0	0
伊丹	4	0	1
加古川	5	1	0
加東	3	0	0
中播磨(福崎)	1	0	0
龍野	5	0	0
赤穂	7	0	1
豊岡	4	0	1
朝来	1	0	0
洲本	2	1	1

その他の血清型:O8,O76,O177,OgN3

血清型	MLVA型別結果	感染者間の関係	件数
0157 : H7	一致		3
0157 : H7	同一complex		4
0157 : H7	同一complex		4
0157 : H-	一致	家族	2
0157 : H7	同一complex		8
0157 : H7	一致	家族	3

10.7 細菌による食中毒（疑）事例の感染源、感染経路調査

健康福祉事務所	病原菌	件数	当初での検査等
加古川	サルモネラ属菌	5	血清型別、ゲノム解析※

※国立感染症研究所で実施

10.8 劇症型溶血性レンサ球菌感染症に係る依頼検査

健康福祉事務所	菌種	件数	群別※, T型別※, EMM型※
宝塚	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	1	G群、STG840.0
加古川	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	A群, T1, EMM1.0
伊丹	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	A群, T1, EMM1.0
宝塚	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	1	G群、STG653.0
加古川	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	A群, T1, EMM1.0
豊岡	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	1	G群、STG245.0
宝塚	<i>Streptococcus agalactiae</i>	1	B群、II型
加古川	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	A群, T1, EMM1.0
加古川	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	1	G群、STG652.0
加東	<i>Streptococcus pyogenes</i>	1	A群, T1, EMM1.0
伊丹	<i>S. dysgalactiae</i> subsp. <i>equisimilis</i>	1	G群、STG840.0
伊丹	<i>Streptococcus agalactiae</i>	1	B群、V型

※国立感染症研究所で実施

10.9 カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症に係る依頼検査

健康福祉事務所(保健所)	菌種	件数	カルバペネマーゼ陽性件数
芦屋	<i>E. cloacae</i>	1	0
宝塚	<i>K. pneumoniae</i>	2	0
	<i>K. aerogenes</i>	4	0
伊丹	<i>E. cloacae</i>	1	0
	<i>K. pneumoniae</i>	1	0
	<i>K. aerogenes</i>	1	0
加古川	<i>E. cloacae</i>	1	0
	<i>E. cloacae complex</i>	1	0
	<i>E. coli</i>	1	1
加東	<i>K. pneumoniae</i>	3	0
	<i>E. cloacae</i>	3	2
	<i>K. aerogenes</i>	3	0
	<i>E. cloacae complex</i>	1	0
赤穂	<i>E. coli</i>	1	1
	<i>K. pneumoniae</i>	1	1
豊岡	<i>K. pneumoniae</i>	1	0
	<i>E. cloacae</i>	1	0
丹波	<i>K. pneumoniae</i>	1	0
	<i>K. aerogenes</i>	1	0

*保健所設置市は除く

菌種	検出されたカルバペネマーゼ遺伝子
<i>E. coli</i>	OXA-48型
<i>E. cloacae</i>	NDM-1
<i>E. cloacae</i>	NDM-1
<i>E. coli</i>	IMP-6
<i>K. pneumoniae</i>	IMP-1

10.10 その他の細菌の依頼検査

健康福祉事務所, 他	検体	件数	当所での検査等	当所での検査結果
洲本	大腸菌	2	血清型別, 病原遺伝子検索	O125:H4, 病原遺伝子:陰性
宝塚	カンピロバクター属菌	2	菌種同定	<i>C. jejuni</i>
宝塚	サルモネラ属菌, エロモナス属菌, プレジオモナス属菌	3	血清型別, 菌種同定	<i>S. Stanley</i> , <i>Aeromonas veronii biovar sobria</i> 等
龍野	チフス菌	1	血清型別, ファージ型別※	<i>S. Typhi</i> , UVS4
加古川	大腸菌	5	血清型別, 病原遺伝子検索	O20:H19等, 病原遺伝子:すべて陰性
伊丹	血清	2	レプトスピラ抗体検査※、DNA検査※	抗体:陽性、DNA:陰性
龍野	サルモネラ属菌	1	血清型別	<i>S. Newport</i>
加古川	膿膜炎菌	1	血清群※, 遺伝子型※, 薬剤感受性※	血清群:Y, 遺伝子型:ST-1655, 薬剤感受性:7薬剤に対して耐性なし
加古川	血清	1	ブルセラ症抗体検査※	陰性
宝塚	インフルエンザ菌	1	莢膜型別	無莢膜型
宝塚	サルモネラ属菌	2	血清型別	<i>S. Stanley</i> , <i>S. Hadar</i>
丹波	チフス菌	1	血清型別, ファージ型別※	<i>S. Typhi</i> , UVS4
宝塚	サルモネラ属菌	1	血清型別	<i>S. Newport</i>
龍野	サルモネラ属菌	1	血清型別	<i>S. Schwarenggrund</i>
加古川	大腸菌	9	血清型別, 病原遺伝子検索	O6:H-等, 病原遺伝子:すべて陰性

※国立感染症研究所で実施

10.11 クドアに係る依頼検査

健康福祉事務所	検体	件数	当所での検査等
豊岡	食品	3	<i>K. septempunctata</i> 検出、顕微鏡検査、 <i>K. iwatai</i> 遺伝子検出、 <i>K. hexapunctata</i> 遺伝子検出
豊岡	患者便	3	<i>K. septempunctata</i> 遺伝子検出

*保健所設置市は除く

10.12 インフルエンザウイルスの検出状況

検体搬入年月	検体数	ウイルス検出数				
		A(H1N1) pdm09	A香港型	B型 (Victoria系統)	B型 (Yamagata系統)	陰性
令和6年4月	11	4	1	5	0	1
5月	2	0	1	0	0	1
6月	0	0	0	0	0	0
7月	2	1	1	0	0	0
8月	4	4	0	0	0	0
9月	1	1	0	0	0	0
10月	4	4	0	0	0	0
11月	9	8	1	0	0	0
12月	24	20	2	0	0	2
令和7年1月	25	20	3	0	0	2
2月	7	2	3	2	0	0
3月	5	0	3	2	0	0
合計	94	64	15	9	0	6

10.13 豚日本脳炎ウイルス抗体保有状況

採血月日	検査頭数	HI抗体価							陽性率 (%)	2ME感受性 (%)
		<10	10	20	40	80	160	320		
6/12	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0
6/26	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0
7/3	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0
7/24	10	7	0	0	0	0	0	2	30	0
8/7	10	8	0	0	0	0	0	2	20	100
8/28	10	6	0	0	0	0	3	1	0	40
9/4	10	0	0	1	0	0	6	3	0	100
9/25	10	0	0	0	0	0	5	3	2	100

10.14 蚊媒介感染症の検査

疾患名	検体数	患者数(陽性数)	ウイルス型(検出人数)	備考
デング熱	8	4(3)	Dengue 2 (2),Dengue 1 (1)	タイ(2),インドネシア(1)渡航
チクングニア熱	6	3(0)	-	-
ジカウイルス感染症	4	2(0)	-	-

10.15 ダニ媒介感染症の検査

疾患名	検体数	患者数	陽性数	備考
日本紅斑熱	74	28	5	遺伝子検査及び抗体検査
つつがむし病	50	19	0	遺伝子検査及び抗体検査
重症熱性血小板減少症候群	17	16	1	遺伝子検査

10.16 HIV の検査

疾患名	検体数	患者数(陽性数)	備考
HIV	2	2(0)	確認検査

10.17 集団嘔吐下痢症からのノロウイルス等の検出状況

事例No.	月	日	健康福祉事務所	原因施設	感染経路	原因食	対象者	患者数	検体	検体数	陽性数	検出ウイルス
1	4	2	宝塚	飲食店	食品	施設が提供した食事	34	18	有症者便	14	12	NoV G II
2	4	11	伊丹						調理従事者	4	1	
3	4	19	加東 芦屋	飲食店	食品	施設が提供した食事	17	6	有症者便	2	0	NoV G II
4	6	17	加東				31	16	有症者便	7	6	
5	7	3	伊丹	不明	食品疑い	不明	5	4	調理従事者	5	1	NoV G II
6	7	26	加東	不明	食品疑い	不明	104	66	有症者便	8	0	NoV G II
7	8	29	加古川	飲食店(露店)	食品	施設が提供した食品			調理従事者	4	0	
8	9	4	伊丹 加古川	飲食店	食品	施設が提供した食事	20	5	有症者便	2	0	
9	10	11	伊丹						有症者便	1	0	NoV G II
10	11	8	宝塚 伊丹 芦屋	飲食店	食品	施設が製造した弁当	不明	44	有症者便	4	4	NoV G II
11	11	18	宝塚						有症者便	1	1	
12	12	11	伊丹						有症者便	1	1	NoV G II
13	1	21	芦屋	飲食店	食品	施設が提供した食事	6	3	有症者便	1	1	NoV G II
14	1	29	加古川 中播磨 加東	飲食店	食品	施設が提供した食事	23	15	有症者便	6	6	NoV G II
15	2	12	伊丹 加古川 中播磨				4,684	35	調理従事者	6	4	
16	2	18	伊丹	その他	食品	施設が調製した弁当			有症者便	12	12	NoV G II
17	2	18	加古川			161	21	調理従事者	56	21		
18	2	21	宝塚					拭き取り	17	1	NoV G II	
19	2	21	中播磨 加古川	飲食店	食品	施設が提供した食事	307	5	有症者便	3	3	NoV G II
20	2	22	伊丹						調理従事者	10	4	
21	2	22	伊丹						拭き取り	9	0	
22	2	24	芦屋	飲食店	食品	施設が調製した弁当	76	29	有症者便	6	5	NoV G II
23	2	28	加古川	不明	食品疑い	不明			調理従事者	3	1	
24	2	28	赤穂	飲食店	食品	施設が調製した弁当			拭き取り	10	0	
									有症者便	1	1	NoV G II
									有症者便	1	1	NoV G II
									調理従事者	3	3	
									拭き取り	10	0	
									有症者便	6	5	NoV G II
									調理従事者	3	1	
									拭き取り	5	0	
									有症者便	1	1	NoV G II
									調理従事者	7	7	NoV G II
									拭き取り	1	1	

事例No.	月	日	健康福祉事務所	原因施設	感染経路	原因食	対象者	患者数	検体	検体数	陽性数	検出ウイルス
25	2	28	宝塚	製造業	食品	施設が製造した食品	30	26	有症者便	16	14	NoV G II
									調理従事者	8	4	
									拭き取り	5	1	
26	3	3	中播磨	飲食店	食品	施設が調製した弁当	214	16	有症者便	4	4	NoV G II
27	3	6	加古川	飲食店	食品	施設が調製した弁当	64	45	有症者便	10	10	NoV G II
28	3	7	豊岡	飲食店	食品	施設が提供した食事	36	25	有症者便	2	2	NoV G II
29	3	7	龍野	飲食店	食品	施設が調製した弁当	151	32	有症者便	4	4	NoV G II
									調理従事者	3	3	
									拭き取り	10	0	
									検食	6	0	
30	3	10	龍野	不明	食品疑い	不明		32	有症者便	5	4	NoV G II
31	3	13	朝来	不明	食品疑い	不明	6	5	調理従事者	8	0	
32	3	15	洲本	飲食店	食品	施設が調製した弁当	114	42	有症者便	10	8	NoV G II
									調理従事者	4	3	
									拭き取り	10	0	
33	3	19	芦屋	飲食店	食品	施設が提供した食事	12	6	有症者便	2	2	NoV G II
34	3	19	宝塚	不明	食品疑い	不明	4	4	有症者便	1	1	NoV G II
35	3	19	宝塚	不明	食品疑い	不明	6	5	有症者便	1	1	NoV G II
36	3	21	宝塚	飲食店	食品	施設が提供した食事	4	4	有症者便	1	0	
37	3	22	豊岡	飲食店	食品	施設が提供した食事	36	18	有症者便	7	7	NoV G II
									調理従事者	4	2	
									拭き取り	5	0	
38	3	25	龍野	飲食店	食品	施設が調製した弁当	36	26	有症者便	8	7	NoV G II
									調理従事者	3	2	
									拭き取り	10	0	
39	3	27	丹波	飲食店	食品	施設が提供した食事	33	19	有症者便	1	1	NoV G II
40	3	29	加古川	飲食店	食品	施設が提供した食事	28	16	有症者便	6	6	NoV G II
									調理従事者	3	2	
			宝塚						拭き取り	5	0	

NoV G I :ノロウイルスG I 、NoV G II :ノロウイルスG II

10.18 麻しん及び風しんウイルスの検出状況

健康福祉事務所	麻しんウイルス				風しんウイルス			
	検査数		陽性数		検査数		陽性数	
	患者数	検体数	患者数	遺伝子型(患者数)	患者数	検体数	患者数	遺伝子型(患者数)
宝塚	2	6	1	B3 (1)	0	0	0	-
伊丹	4	12	0	-	4	12	0	-
加古川	8	24	0	-	0	0	0	-
加東	1	3	0	-	0	0	0	-
龍野	1	3	1	B3 (1)	0	0	0	-
赤穂	2	6	0	-	2	6	0	-
洲本	1	3	0	-	0	0	0	-
西宮市	8	23	0	-	5	14	0	-
明石市	4	10	1	B3 (1)	0	0	0	-
合計	31	90	3		11	32	0	

10.19.1 感染症発生動向調査における月別病原体検査件数

(インフルエンザの検体を除く)

検体採取月	令和6年												合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
検体数	8	8	24	15	6	6	8	14	3	5	11	13	121
患者数	4	7	22	14	3	6	8	4	3	4	7	10	92
検査材料	咽頭ぬぐい液	2	1	5	3	1	1	0	3	1	0	0	0
	鼻腔ぬぐい液	2	4	16	9	1	3	4	0	2	3	7	4
	髄液	0	1	0	1	1	0	0	0	0	1	0	5
	便	1	1	0	2	0	0	0	2	0	0	1	5
	尿	0	0	0	0	1	0	0	2	0	0	1	2
	血液	1	1	2	0	2	1	3	7	0	2	1	21
	気管吸引液	1	0	1	0	0	0	1	0	0	0	1	4
	その他	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1

10.19.2 感染症発生動向調査における月別疾患別病原体検出件数

(インフルエンザの検体を除く)

疾患名	検出病原体	令和6年												合計
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
咽頭結膜熱	アデノウイルス 1型	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	アデノウイルス 2型	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
	コクサッキーウィルス B3型	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	EBウィルス	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
	サイトメガロウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
手足口病	コクサッキーウィルス A6型	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	エコーウィルス18型	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
ヘルパンギーナ	コクサッキーウィルス A6型	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
無菌性髄膜炎	コクサッキーウィルス B3型	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
	エコーウィルス11型	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
感染性胃腸炎	ノロウイルス G II.7	0	1	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	3
	ノロウイルス G II.17	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	ライノウイルス	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
RSウイルス感染症	RSウイルス	2	3	18	9	1	3	4	0	3	2	6	1	52
	ライノウイルス	0	0	5	1	1	0	1	0	0	0	1	0	9
	コクサッキーウィルス A6型	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5
	コクサッキーウィルス B3型	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
	エンテロウイルス D68型	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	2
	ヒトメタニユーモウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
呼吸器疾患 (上気道炎・下気道炎)	ライノウイルス	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	エンテロウイルス D68型	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV 6)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV 7)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	インフルエンザ菌	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
その他(肝機能障害等)	ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV 6)	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	3
	サイトメガロウイルス	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	インフルエンザ菌	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
検出数(合計)		2	8	30	15	3	4	11	7	4	2	8	2	96

10.20 農産物の残留農薬試験結果

(国産品)

実施期間：令和6年5月～令和6年11月

分類	食品分類	検出農薬名	検出数 / 検体数	検出値 ppm	基準値 ppm
野菜	かぼちゃ	アゾキシストロビン ジノテフラン	1 / 12 1 /	0.02 0.03	1 2
	かんしょ	—	0 / 3		—
	キャベツ	クロチアニジン	1 / 1	0.01	0.7
	きゅうり	アセタミブリド カルベンダジム ジノテフラン プロシミドン	1 / 7 1 / 2 / 1 /	0.02 0.03 0.03～0.18 0.07	2 3 2 4
	こまつな	クロラントラニリプロール ジノテフラン フルフェノクスロン	1 / 1 1 / 1 /	0.09 0.11 0.05	20 10 10
	さといも類	—	0 / 2		—
	しろうり	—	0 / 2		—
	すいか	—	0 / 1		—
	だいこん類の根	—	0 / 3		—
	たまねぎ	—	0 / 1		—
	トマト	カルベンダジム ファモキサドン フロニカミド	2 / 6 1 / 1 /	0.01～0.02 0.13 0.02	3 2 2
	なす	アセタミブリド エトフェンプロックス クロラントラニリプロール ジノテフラン プロシミドン	1 / 7 1 / 1 / 1 / 1 /	0.03 0.02 0.01 0.05 0.02	2 2 0.7 2 5
	にんじん	ボスカリド	2 / 6	0.01～0.02	2
	ばれいしょ	—	0 / 5		—
	ブロッコリー	—	0 / 1		—
	未成熟えんどう	—	0 / 1		—
	やまいも	—	0 / 1		—
	レタス	—	0 / 1		—
	その他きのこ類	—	0 / 1		—
	その他のうり科野菜	—	0 / 3		—
果実	かき	ジノテフラン フルベンジアミド	1 / 1 1 /	0.09 0.01	2 0.8

検体数：66

24 / 66

(輸入品)

実施期間：令和6年5月～令和6年11月

分類	食品分類	検出農薬名	検出数 / 検体数	検出値 ppm	基準値 ppm
野菜	かぼちゃ	—	0 / 2		—
	こまつな	イミダクロプリド	1 / 1	0.02	5
		クロルフェナピル	1 /	0.08	5
		ジメトモルフ	1 /	0.17	30
	さといも類	—	0 / 1		—
	プロッコリー	—	0 / 1		—
果実	未成熟いんげん	—	0 / 1		—
	キウイ	—	0 / 3		—
	パイナップル	—	0 / 3		—
	バナナ	カルベンダジム	2 / 5	0.01～0.02	3
		クロルフェナピル	1 /	0.03	2
		シハロトリン	1 /	0.05	0.5
		チアメトキサム	1 /	0.01	0.7
	りんご	—	0 / 1		—

検体数：18

8 / 18

検査項目一覧（農薬 295 種、代謝物 5 種）

農 薬	定量限界(ppm)	農 薬	定量限界(ppm)	農 薬	定量限界(ppm)	農 薬	定量限界(ppm)
BHC(α -, β -, γ -, δ -)	0.005	クロエンテジン	0.01	ダイアジノン	0.01	ピラフルフェニチル	0.01
DDT (o,p' -, p,p' -)	0.01	クロマゾン	0.01	ダイアレート	0.01	ピリダフェンチオン	0.01
EPN	0.01	クロマフェジド	0.01	ダイムロン	0.01	ピリダベン	0.01
EPTC	0.01	クロメフロップ	0.01	チアクロブリド	0.01	ピリダリル	0.01
TCMTB	0.01	クロラントリフロール	0.01	チアメトキサム	0.01	ピリフェノックス(-E,-Z)	0.01
アクリナトリ	0.01	クロルエトキシホス	0.01	チオジカルブ	0.01	ピリブチカルブ	0.01
アシンホスマチル	0.01	クロルタールジメチル	0.01	チオベンカルブ	0.01	ピリブロキシフェン	0.01
アセミブリド	0.01	クロルデン(シス-,トランス-)	0.01	チオメトン	0.01	ピリミカーブ	0.01
アセトクロール	0.01	クロルビリホス	0.01	チフルサミド	0.01	ピリミジフェン	0.01
アセフェート	0.01	クロルビリホスマチル	0.01	テイルベンジン	0.005	ピリミノバッケメチル(-E,-Z)	0.01
アゾキシストロビン	0.01	クロルフェナビル	0.01	テクナゼン	0.01	ピリミホスマチル	0.01
アトラジン	0.01	クロルフェンゾン	0.01	テトラクロルビンホス	0.01	ピリメタニル	0.01
アニロホス	0.01	クロルフェンゾンホス(-E,-Z)	0.01	テトラコナゾール	0.01	ピロキロン	0.01
アメトリン	0.01	クロルブファム	0.01	テトラジンホン	0.01	ヒンクロソブリジン	0.01
アラクロール	0.01	クロルフルアズロン	0.01	テニルクロール	0.01	ファムフル	0.01
アルジカルブ	0.01	クロルブロファム	0.01	テブコナゾール	0.01	ファモキサドン	0.01
アルドリン	0.005	クロロクスロン	0.01	テブチウロン	0.01	フィブロニル	0.002
イサゾホス	0.01	クロロヘンジレート	0.01	テブフェニゾト	0.01	フェナミホス	0.01
イソフエンホス	0.01	シアナジン	0.01	テブフェンビラド	0.01	フェナリモル	0.01
イソブロカルブ	0.01	シアノホス	0.01	テフルトリソ	0.01	フェニトロチオン	0.01
イソブロチオラン	0.01	ジカロン	0.01	テメトンSメチル	0.01	フェノキサニル	0.01
イブロジン	0.01	ジエトフェンカルブ	0.01	テルタメトリン	0.01	フェノキシカルブ	0.01
イブロハリカルブ	0.01	ジオキサチオン	0.01	テルブトリソ	0.01	フェノキサブロップエチル	0.01
イブロベンホス	0.01	ジクロシメット	0.01	テルブホス	0.005	フェノチオカルブ	0.01
イミダクロブリド	0.01	ジクロフェンチオン	0.01	トリアジメノール	0.01	フェトトリソ	0.01
イミベンコナゾール	0.01	ジクロフルアニド	0.01	トリアジメホン	0.01	フェノブカルブ	0.01
インドキサカルブ	0.01	ジクロホップメチル	0.01	トリアゾホス	0.01	フェリムゾン(-E,-Z)	0.01
エチオン	0.01	ジクロラン	0.01	トリアレート	0.01	フェンアミト	0.01
エテイフェンホス	0.01	ジクロルボス	0.01	トリシクラゾール	0.01	フェンクロルホス	0.01
エキサゾール	0.01	ジコホール	0.01	トリチコナゾール	0.01	フェンスルホチオン	0.01
エトフェンブロックス	0.01	ジスルホトン	0.01	トリブホス	0.01	フェンチオン	0.01
エトブロホス	0.01	シコジンエチル	0.01	トリフルミゾール	0.01	フェントエート	0.01
エトリシアゾール	0.01	ジノテフラン	0.01	トリフルラリン	0.01	フェンバレレート	0.01
エボキシコナゾール	0.01	シハロトリソ	0.01	トリフルキシストロビン	0.01	フェンビロキシメート(-E,-Z)	0.01
エントスルファン(α -, β -)	0.01	シハロホップブチル	0.01	トルクロホスマチル	0.01	フェンブコナゾール	0.01
エントリソ	0.005	ジフェナミド	0.01	トルフェンビラド	0.01	フェンブロバトリソ	0.01
オキサジアゾン	0.01	ジフェノコナゾール	0.01	ナブロアリト	0.01	フサライト	0.01
オキサジキシリ	0.01	シフルトリソ	0.01	ナブロバミド	0.01	ブタクロール	0.01
オキサジクロメホン	0.01	シフルフェナミド	0.01	ニトラビリン	0.01	ブタフェナシル	0.01
オキシクロルテニ	0.01	シフルフェニカン	0.01	ニトロタルイソブロビル	0.01	ブタホス	0.01
オメトエート	0.01	シフルベニズロン	0.01	ノバルロン	0.01	ブビリメート	0.01
オリザリソ	0.01	シブロコナゾール	0.01	ノルフルラゾン	0.01	ブブロフェジン	0.01
カスサホス	0.01	シブロジニル	0.01	バーバン	0.01	フラチオカルブ	0.01
カルバリル	0.01	シベルメトリソ	0.01	バクロブロジゾール	0.01	フラムブロップメチル	0.01
カルフェントラゾンエチル	0.01	シマジン	0.01	バミドチオン(XMC)	0.01	フルアクリビリム	0.01
カルブロバミト	0.01	シメタトリソ	0.01	バラチオン	0.01	フルキンコナゾール	0.01
カルベンダジム(MBC)	0.01	ジメチルビンホス(-E,-Z)	0.01	バラチオンメチル	0.01	フルジオキソニル	0.01
カルボフラン	0.01	ジメトエート	0.01	ハルフェンブロックス	0.01	フルシリネット	0.01
キサホップエチル	0.01	ジメトモルフ(-E,-Z)	0.01	ヒコリナフエン	0.01	フルシラゾール	0.01
キナルホス	0.01	シメトリソ	0.01	ヒテルタゾール	0.01	フルトラニル	0.01
キノキシフェン	0.01	ジメビペレート	0.01	ヒフェントリソ	0.01	フルトリアホール	0.01
キャブタン	0.01	シラフルオフェン	0.01	ヒペニルブキシド	0.01	フルハリネット	0.01
キントゼン	0.01	スピロテトラマト	0.01	ヒペロホス	0.01	フルフェナセット	0.01
クレスキシムメチル	0.01	ゾキサミド	0.01	ヒラクロストロビン	0.01	フルフェノクスロン	0.01
クロチアニシン	0.01	ターバシル	0.01	ヒラゾホス	0.01	フルフェンビルエチル	0.01

フルベンジンアミ	0.01	ブロホキスル	0.01	ベンチオヒラド	0.01	メチダチオン	0.01
フルミオキサシン	0.01	ブロマシル	0.01	ベンディメタリン	0.01	メトキシクロール	0.01
フルミクロラックベンチル	0.01	ブロメトリン	0.01	ベンフラカルブ	0.01	メトキシフェノジト	0.01
フルリトン	0.01	ブロモガチト	0.01	ベンフルラリン	0.01	メトミノストロビン(-E)	0.01
ブレチラクロール	0.01	ブロモブロビレート	0.01	ベンフレセート	0.01	メトラクロール	0.01
ブロクロラズ	0.01	ブロモホス	0.01	ホサロン	0.01	メバニヒリム	0.01
ブロシドン	0.01	ブロモホスエチル	0.01	ホスカリド	0.01	メビンホス(-E,-Z)	0.01
ブロチオホス	0.01	ヘキサクロベンゼン	0.01	ホスチアゼート	0.01	メフェナセット	0.01
フロニミド	0.01	ヘキサコナゾール	0.01	ホスマミドン(-E,-Z)	0.01	メフェンヒルジエチル	0.01
ブロハキサホップ	0.01	ヘキサジノン	0.01	ホスマット	0.01	メブロニル	0.01
ブロハクロール	0.01	ペナラキシル	0.01	ホレート	0.01	モノクロトホス	0.01
ブロハジン	0.01	ヘノキサコール	0.01	マラチオン	0.01	モノリュロン	0.01
ブロバニル	0.01	ヘフタクロル	0.01	ミクロブタニル	0.01	リニュロン	0.01
ブロハホス	0.01	ベルタン	0.01	メカルバム	0.01	ルフェヌロン	0.01
ブロハルギット	0.01	ベルメトリン	0.01	メソミル	0.01	レナシル	0.01
ブロヒコナゾール	0.01	ベンコナゾール	0.01	メタクリホス	0.01		
ブロビサミド	0.01	ベンシクロン	0.01	メタベンズチアズロン	0.01		
ブロヒドロジヤスモン	0.01	ベンゾフェナップ	0.01	メタミドホス	0.01		
ブロフェノホス	0.01	ベンダイオカルブ	0.01	メタキシリル	0.01		
ブロベタンホス	0.01	ベンチアハリカルブイソブロビル	0.01	メオカルブ	0.01		

[代謝物]

DDD (p,p')	0.01
DDE (p,p')	0.01
イソフェンホスオキソソ	0.01
エントスルファンスルファート	0.01
シスルホトンスルホン	0.01

10.21 国産食肉の残留農薬試験結果

実施期間：令和6年7月

品名	検出農薬名	検出数 / 検体数	検出値 ppm	基準値 ppm
牛肉	—	0 / 4	ND	—
豚肉	—	0 / 4	ND	—
鶏肉	—	0 / 4	ND	—

総検体数：12 ND：定量限界値未満

検査項目一覧 (農薬194種、代謝物6種)					
農 薬	定量限界(ppm)	農 薬	定量限界(ppm)	農 薬	定量限界(ppm)
DDT (<i>o,p'</i> -, <i>p,p'</i> -)	0.01	クロロネ ^ブ	0.01	フェニトロチオン	0.01
EPTC	0.01	クロロベンジ ^シ レート	0.01	フェノキサニル	0.01
γ -BHC	0.01	ジクロホップメチル	0.01	フェノキサブロップエチル	0.01
アザメチホス	0.01	ジクロラン	0.01	フェノキシカルブ ^フ	0.01
アシンホスマス	0.01	ジクロロボ ^ス	0.01	フェトリソ ^フ	0.01
アセミブ ^{リド}	0.01	ジコホール	0.01	フェノブ ^カ カルブ ^フ	0.01
アゾキシストロビン	0.01	ジスルホトン	0.01	フェリムゾン	0.01
アトラン	0.01	シハトリソ ^フ	0.01	フェンミド ^ン	0.01
アニホス	0.01	ジエノコナゾ ^ル ール	0.01	フェンチオ ^ン	0.01
アメトリソ ^フ	0.01	シフルトリソ ^フ	0.01	フェントラサミド ^ト	0.01
アラクロール	0.01	ジフルフェニカ ^ン	0.01	フェンハ ^レ レート	0.01
アルジカルブ ^フ	0.01	ジフルベンジ ^ス ロン	0.01	フェンブロキシメート	0.005
アルドリン	0.01	シブロコナゾ ^ル ール	0.01	フェンブコナゾ ^ル ール	0.01
アレスソ ^ル	0.01	シブロジ ^ニ ル	0.01	フェンブロバトリソ ^ル	0.01
イソキサチオ ^ン	0.01	シペルメトリソ ^ル	0.01	フェンメティファム	0.01
イソキサフルトル	0.02	シマジ ^ン	0.01	ブタフェナシル	0.01
イプロジ ^ン オン	0.01	シメコナゾ ^ル ール	0.01	ブプロフェジ ^ン	0.01
イプロハ ^リ カルブ ^フ	0.01	ジメトエート	0.01	ブラチオカルブ ^フ	0.01
イマサリル	0.01	シメトリソ ^ル	0.01	ブラムブロップメチル	0.01
イミダクロブ ^{リト}	0.01	スピロジ ^ン クロフェン	0.01	ブルキンコナゾ ^ル ール	0.01
イントキサカルブ ^フ	0.01	ダイアジ ^ソ ン	0.01	ブルジ ^ン オキソニル	0.01
エチオ ^ン	0.01	ダイアレート	0.01	フルシリネート	0.01
エディフェンホス	0.01	ダイムロン	0.01	フルシリゾ ^ル ール	0.01
エトキサゾ ^ル ール	0.01	チアベンドゾ ^ル ール	0.01	フルトラニル	0.01
エトメセート	0.01	チオヘンカルブ ^フ	0.01	フルフエナセト	0.01
エトプロホス	0.01	チオメトソ ^ル	0.01	フルミクロラック ^ン チル	0.01
エトリジ ^ア ゾ ^ル ール	0.01	デイルドリン	0.01	フルリド ^ン	0.01
エホ ^キ コナゾ ^ル ール	0.01	テクナゼン	0.01	ブロクロラス ^ト	0.01
エド ^ス ルア ^ン (α -, β -)	0.01	テブ ^コ ナゾ ^ル ール	0.01	ブロミド ^ン	0.01
エンド ^リ ル	0.01	テブ ^フ ノゾ ^ト	0.01	ブロハ ^キ サ ^ホ ップ ^フ	0.01
オキサジ ^ア ゾ ^ン	0.01	テブ ^ラ キシジ ^ム	0.01	ブロハ ^ク ロール	0.01
オキサジ ^ク ロメホン	0.01	テルタメトリソ ^ル	0.01	ブロハ ^ニ ル	0.01
オキサベ ^ト リニル	0.01	テルブ ^ト リソ ^ル	0.01	ブロハ ^ル ギ ^{ット}	0.01
オキシフルオルフェン	0.01	テルブ ^ホ ス	0.01	ブロビ ^コ ナゾ ^ル ール	0.01
カルバ ^リ ル	0.01	トリアジ ^メ ノール	0.01	ブロビ ^サ ミ ^ト	0.01
カルフェントラゾ ^ン エチル	0.01	トリアジ ^メ ホン	0.01	ブロフェノ ^ホ ス	0.01
カルベ ^ミ ド ^ト	0.01	トリアゾ ^ホ ス	0.01	ブロホ ^キ スル	0.01
カルベ ^ン ダジ ^ム	0.01	トリアレート	0.01	ブロメトリソ ^ル	0.01
カルボ ^キ シン	0.01	トリコナゾ ^ル ール	0.01	ブロモフロビ ^レ ート	0.01
カルボ ^フ ラン	0.01	トリフルミ ^ジ ー ^ル ール	0.01	ヘキサジ ^ソ ン	0.01
キサロホップ ^エ チル	0.01	トリフルムロン	0.01	ヘナラキシル	0.01
キナルホス	0.01	トリフルラリン	0.01	ヘ ^タ クロロ	0.01
キノキシフェン	0.01	トリフロキシストロビン	0.01	ヘ ^ル メトリソ ^ル	0.01
キント ^セ ン	0.01	トロビ ^リ ン	0.01	ヘンコナゾ ^ル ール	0.01
クミルロン	0.01	ノルフルラゾ ^ン	0.01	ヘンゾ ^ニ フェナップ ^フ	0.01
クレソ ^シ ムメチル	0.01	バラチオ ^ン	0.01	ヘンダ ^イ オカルブ ^フ	0.01
クレトジ ^ム	0.01	バラチオ ^ン メチル	0.01	ヘンテ ^ミ タリソ ^ル	0.01
クロキ ^ト セツメキシル	0.01	ハロキシホップ ^フ	0.01	ボスカリ ^ト	0.01
クロ ^ノ ナホップ ^フ ロ ^ハ ルキ ^ル	0.01	ピコリナフェン	0.01	ホスマト ^ト	0.01
クロチアニジ ^ン	0.01	ピ ^テ ルタノール	0.01	ホレート	0.01
クロフェンテ ^ン	0.01	ピ ^エ ントリソ ^ル	0.01	マラチオ ^ン	0.01
クロマゾ ^ン	0.01	ピ ^ヘ ロニル ^ト キシド ^ト	0.01	ミクロ ^フ タニル	0.01
クロマフェノジ ^ト	0.01	ピ ^ラ クロストロビン	0.01	メタクリホス	0.01
クロメ ^ブ ロップ ^フ	0.01	ピ ^ラ ゾ ^ホ ス	0.01	メタヘン ^ス チアス ^ロ ン	0.01
クロルターレジ ^メ チル	0.01	ピ ^リ ダ ^ヘ ン	0.01	メタキシル	0.01
クロ ^テ ン ^シ ス ^ト ラ ^ン ス ^ト	0.01	ピ ^リ フタリ ^ト	0.01	メチダチオ ^ン	0.01
クロルヒ ^リ ホス	0.01	ピ ^リ プロキシフェン	0.01	メトキシクロロ ^ル	0.01
クロルヒ ^リ ホスメチル	0.01	ピ ^リ ミカ ^{ーブ}	0.01	メトキシフェノジ ^ト	0.01
クロルフェナ ^ニ ル	0.01	ピ ^リ ミ ^ス ホスメチル	0.01	メトラキシル	0.01
クロルフェンソ ^ン	0.01	ピ ^リ メタニル	0.01	メトリフ ^ジ ン	0.01
クロルフェン ^シ ンホス	0.01	ピ ^ン クロゾ ^リ ン	0.01	メハニビ ^リ ム	0.01
クロルブ ^フ ラム	0.01	ファモキサド ^ン	0.01	メエンビ ^ル ジ ^エ チル	0.01
クロルフルア ^ス ロン	0.01	フィブ ^リ ニル	0.01	モリユロ ^ン	0.01
クロルベ ^ン ジ ^ト	0.01	フェナミホス	0.01	リユロ ^ン	0.01
クロロクスロン	0.01	フェナリモル	0.01		
[代謝物]					
DDD (<i>p,p'</i> -)	0.01	オキシクロルテ ^ン	0.01	ヘ ^タ クロロエホ ^キ ド ^ト	0.01
DDE (<i>p,p'</i> -)	0.01	ジスルホトンスルホン	0.01		
ジコホール代謝物 : 4,4'-ジ ^シ クロロベ ^ン ジ ^フ フェノン			0.01		

10.22 畜水産食品等の残留医薬品試験結果（輸入畜水産食品）

実施期間：令和6年7月～令和6年10月

品名	試験項目	検出数 / 検体数	検出値 μg/g	基準値 μg/g	定量限界値 μg/g
牛肉	オキシテトラサイクリン	0 / 5	ND	0.2	0.02
	テトラサイクリン	0 / 5	ND		0.02
	クロルテトラサイクリン	0 / 5	ND	0.03	0.03
	ドキシサイクリン	0 / 5	ND		0.05
	エンロフロキサシン	0 / 5	ND	0.05	0.01
	シプロフロキサシン	0 / 5	ND		0.01
	オフロキサシン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	サラフロキサシン	0 / 5	ND		0.01
	ジフロキサシン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	ノルフロキサシン	0 / 5	ND		0.01
	オキソリニック酸	0 / 5	ND	0.1	0.01
	フルメキン	0 / 5	ND	0.5	0.01
	スルファキノキサリン	0 / 5	ND	0.1	0.01
	スルファクロルピリダジン	0 / 5	ND	0.1	0.01
	スルファジアジン	0 / 5	ND	0.1	0.01
	スルファジミジン	0 / 5	ND	0.10	0.01
	スルファジメトキシン	0 / 5	ND	0.05	0.01
	スルファチアゾール	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファドキシン	0 / 5	ND		0.01
	スルファベンズアミド	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメトキサゾール	0 / 5	ND		0.01
	スルファメトキシピリダジン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメラジン	0 / 5	ND		0.01
	スルファモノメトキシン	0 / 5	ND	0.01	0.01
	ゼラノール	0 / 5	ND	0.002	0.002
	β-トレノボロン	0 / 5	ND	0.002	0.002
豚肉	オキシテトラサイクリン	0 / 4	ND	0.2	0.02
	テトラサイクリン	0 / 4	ND		0.02
	クロルテトラサイクリン	0 / 4	ND	0.03	0.03
	ドキシサイクリン	0 / 4	ND		0.05
	エンロフロキサシン	0 / 4	ND	0.05	0.01
	シプロフロキサシン	0 / 4	ND		0.01
	オフロキサシン	0 / 4	ND	含有してはならない	0.01
	サラフロキサシン	0 / 4	ND		0.01
	ジフロキサシン	0 / 4	ND	0.02	0.01
	ノルフロキサシン	0 / 4	ND	0.02	0.01
	オキソリニック酸	0 / 4	ND	0.02	0.01
	フルメキン	0 / 4	ND	0.5	0.01
	スルファキノキサリン	0 / 4	ND	含有してはならない	0.01
	スルファクロルピリダジン	0 / 4	ND		0.01
	スルファジアジン	0 / 4	ND	0.1	0.01
	スルファジミジン	0 / 4	ND	0.10	0.01

	スルファジメトキシン	0 / 4	ND	0.2	0.01
	スルファチアゾール	0 / 4	ND	含有してはならない	0.01
	スルファドキシン	0 / 4	ND	0.1	0.01
	スルファベンズアミド	0 / 4	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメトキサゾール	0 / 4	ND	0.02	0.01
	スルファメトキシピリダジン	0 / 4	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメラジン	0 / 4	ND	含有してはならない	0.01
	スルファモノメトキシン	0 / 4	ND	0.02	0.01
鶏肉	オキシテトラサイクリン	0 / 5	ND	0.2	0.02
	テトラサイクリン	0 / 5	ND		0.02
	クロルテトラサイクリン	0 / 5	ND		0.03
	ドキシサイクリン	0 / 5	ND	0.05	0.05
	エンロフロキサシン	0 / 5	ND	0.05	0.01
	シプロフロキサシン	0 / 5	ND		0.01
	オフロキサシン	0 / 5	ND	0.05	0.01
	サラフロキサシン	0 / 5	ND	0.01	0.01
	ジフロキサシン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	ノルフロキサシン	0 / 5	ND	0.02	0.01
	オキソリニック酸	0 / 5	ND	0.03	0.01
	フルメキン	0 / 5	ND	0.5	0.01
	スルファキノキサリン	0 / 5	ND	0.05	0.01
	スルファクロルピリダジン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファジアジン	0 / 5	ND	0.1	0.01
	スルファジミジン	0 / 5	ND	0.10	0.01
	スルファジメトキシン	0 / 5	ND	0.05	0.01
	スルファチアゾール	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファドキシン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファベンズアミド	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメトキサゾール	0 / 5	ND	0.02	0.01
	スルファメトキシピリダジン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメラジン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.01
	スルファモノメトキシン	0 / 5	ND	0.1	0.01
エビ	オキシテトラサイクリン	0 / 15	ND	0.2	0.02
	テトラサイクリン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.02
	クロルテトラサイクリン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.03
	ドキシサイクリン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.05
	エンロフロキサシン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
	シプロフロキサシン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
	オフロキサシン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
	サラフロキサシン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
	ジフロキサシン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
	ノルフロキサシン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
	オキソリニック酸	0 / 15	ND	0.03	0.01
	フルメキン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
	スルファキノキサリン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
	スルファクロルピリダジン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01

スルファジアジン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
スルファジミジン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
スルファジメトキシン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
スルファチアゾール	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
スルファドキシン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
スルファベンズアミド	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
スルファメトキサゾール	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
スルファメトキシピリダジン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
スルファメラジン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01
スルファモノメトキシン	0 / 15	ND	含有してはならない	0.01

総検体数：29 検体 ND：定量限界値未満

10.23 国産食肉の残留医薬品試験結果

実施期間：令和6年7月～令和7年1月

品名	試験項目	検出数 / 検体数	検出値 μg/g	基準値 μg/g	定量限界値 μg/g
牛肉	オキシテトラサイクリン	0 / 5	ND	0.2	0.02
	テトラサイクリン	0 / 5	ND		0.02
	クロルテトラサイクリン	0 / 5	ND		0.03
	ドキシサイクリン	0 / 5	ND	含有してはならない	0.05
	オキソリニック酸	0 / 5	ND		0.01
	フルメキン	0 / 5	ND		0.01
	スルファキノキサリン	0 / 5	ND		0.01
	スルファクロルピリダジン	0 / 5	ND		0.01
	スルファジアジン	0 / 5	ND		0.01
	スルファジミジン	0 / 5	ND		0.01
	スルファジメトキシン	0 / 5	ND		0.05
	スルファチアゾール	0 / 5	ND		0.01
	スルファドキシン	0 / 5	ND		0.01
	スルファベンズアミド	0 / 5	ND		0.01
	スルファメトキサゾール	0 / 5	ND		0.01
	スルファメトキシピリダジン	0 / 5	ND		0.01
	スルファメラジン	0 / 5	ND		0.01
	スルファモノメトキシン	0 / 5	ND		0.01
	イベルメクチン	0 / 3	ND	0.01	0.005
	モキシデクチン	0 / 3	ND	0.02	0.005
豚肉	オキシテトラサイクリン	2 / 9	ND ~ 0.08	0.2	0.02
	テトラサイクリン	0 / 9	ND		0.02
	クロルテトラサイクリン	0 / 9	ND		0.03
	ドキシサイクリン	0 / 9	ND	0.05	0.05
	オキソリニック酸	0 / 9	ND	0.02	0.01
	フルメキン	0 / 9	ND	0.5	0.01
	スルファキノキサリン	0 / 9	ND	含有してはならない	0.01
	スルファクロルピリダジン	0 / 9	ND		0.01
	スルファジアジン	0 / 9	ND		0.01

	スルファジミジン	0 / 9	ND	0.10	0.01
	スルファジメトキシン	0 / 9	ND	0.2	0.01
	スルファチアゾール	0 / 9	ND	含有してはならない	0.01
	スルファドキシン	0 / 9	ND	0.1	0.01
	スルファベンズアミド	0 / 9	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメトキサゾール	0 / 9	ND	0.02	0.01
	スルファメトキシピリダジン	0 / 9	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメラジン	0 / 9	ND	含有してはならない	0.01
	スルファモノメトキシン	0 / 9	ND	0.02	0.01
	イベルメクチン	0 / 3	ND	0.02	0.005
鶏肉	オキシテトラサイクリン	1 / 10	ND ~ 0.05	0.2	0.02
	テトラサイクリン	0 / 10	ND		0.02
	クロルテトラサイクリン	0 / 10	ND		0.03
	ドキシサイクリン	0 / 10	ND		0.05
	オキソリニック酸	0 / 10	ND	0.03	0.01
	フルメキン	0 / 10	ND	0.5	0.01
	スルファキノキサリン	0 / 10	ND	0.05	0.01
	スルファクロルピリダジン	0 / 10	ND	含有してはならない	0.01
	スルファジアジン	0 / 10	ND	0.1	0.01
	スルファジミジン	0 / 10	ND	0.10	0.01
	スルファジメトキシン	0 / 10	ND	0.05	0.01
	スルファチアゾール	0 / 10	ND	含有してはならない	0.01
	スルファドキシン	0 / 10	ND	含有してはならない	0.01
	スルファベンズアミド	0 / 10	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメトキサゾール	0 / 10	ND	0.02	0.01
	スルファメトキシピリダジン	0 / 10	ND	含有してはならない	0.01
	スルファメラジン	0 / 10	ND	含有してはならない	0.01
	スルファモノメトキシン	0 / 10	ND	0.1	0.01

総検体数：24 検体 ND：定量限界値未満

10.24 輸入かんきつ類の防かび剤試験結果

実施期間：令和6年9月

品名	試験項目	検出数 / 検体数	検出値 $\mu\text{g/g}$	基準値 $\mu\text{g/g}$
オレンジ	イマザリル	3 / 4	ND ~ 3.6	5.0
	OPP ^{注1}	0 / 4	ND	10
	ジフェニル	0 / 4	ND	70
	チアベンダゾール	3 / 4	ND ~ 3.4	10
グレープフルーツ	イマザリル	2 / 5	ND ~ 2.8	5.0
	OPP ^{注1}	0 / 5	ND	10
	ジフェニル	0 / 5	ND	70
	チアベンダゾール	3 / 5	ND ~ 2.0	10
レモン	イマザリル	0 / 1	ND	5.0
	OPP ^{注1}	0 / 1	ND	10
	ジフェニル	0 / 1	ND	70
	チアベンダゾール	0 / 1	ND	10

総検体数：10

注1：オルトフェニルフェノール及びオルトフェニルフェノールナトリウム

定量限界値：0.1 $\mu\text{g/g}$ ND：定量限界値未満

10.25 輸入食品における指定外添加物等の試験結果

実施期間：令和6年6月～令和6年11月

品名	着色料		$\text{パラオキシ安息香酸メチル} \cdot \text{ソルビン酸}$		$\text{tert-ブチルヒドロキサン} \text{(TBHQ)}$		サイクラミン酸	
	検体数	結果	検体数	結果	検体数	結果	検体数	結果
缶詰			1	ND	1	ND	8	ND
麺類	2	適			6	ND		
菓子類	5	適			2	ND		
ジャム			5	ND				
調味料	1	適	2	ND	1	ND		
漬物	2	適						
魚介加工品							2	ND
乾燥果実			1	ND				
あん類			1	ND				
定量限界値	—		0.005 g/kg (パラオキシ安息香酸メチル)		0.001 g/kg		0.005 g/kg	
			0.01 g/kg (ソルビン酸)					

総検体数：40 ND：定量限界値未満

着色料の検査項目：下記の38種類

指定外着色料（日本で使用が認められていないもの）：ナフトールイエローS, クリゾイン, レッド10B, オレンジG, アシッドバイオレット7, ブリリアントブラックPN, イエロー2G, レッド2G, ウラニン, ファストレッドE, グリーンS, ポンソー2R, アズルビン, オレンジI, キノリンイエロー, マルチウスイエロー, ポンソーSX, ポンソー3R, エオシン, オレンジII, オレンジRN, アシッドブルー1, アミドブラック10B, パテントブルーV, アシッドグリーン9, ベンジルバイオレット4B（合計26種類）

許可着色料（日本で使用が認められているもの）：食用赤色2号, 食用赤色3号, 食用赤色40号,

食用赤色 102 号, 食用赤色 104 号, 食用赤色 105 号, 食用赤色 106 号, 食用黄色 4 号, 食用黄色 5 号, 食用綠色 3 号, 食用青色 1 号, 食用青色 2 号 (合計 12 種類)

10.26 米の成分規格試験結果

実施期間 : 令和 6 年 9 月

品名	検出数／検体数	検査結果 (mg/kg)
		カドミウム
玄米	9/14	ND ~ 0.14

総検体数 : 14 玄米の成分規格 : カドミウム含有量 0.4 mg/kg 以下

定量限界 : 0.02 mg/kg

ND : 定量限界値未満

10.27 遺伝子組換え食品の試験結果

実施期間 : 令和 6 年 7 月

検査対象項目	品名	生産地	遺伝子組換え等の表示	試験結果
ダイズ穀粒	大豆	カナダ	無表示	0.18 %
	大豆	カナダ	分別生産流通管理済み	検出しない
	大豆	日本	無表示	検出しない
	大豆	日本	無表示	検出しない
	大豆	日本	無表示	検出しない
	大豆	日本	無表示	検出しない
	大豆	日本	無表示	検出しない
	大豆	日本	組換えでない	陰性
	大豆	日本	組換えでない	陰性

総検体数 : 9 定量 PCR 法の定量限界 : 0.10%, 定性 PCR 法の検出限界 : 0.10%

食品表示における適合基準 : 「分別生産流通管理済み」及び「無表示」の場合、定量 PCR 法により遺伝子組換え食品の含有率 5% 以下、「組換えでない」の場合、定性 PCR 法により “陰性”

10.28 アレルゲン（特定原材料）を含む食品の試験結果

実施期間：令和6年12月

検査対象項目	品名	検出数 / 検体数	検出値 μg/g
小麦	菓子類	0 / 8	ND
	米加工品	0 / 2	ND

総検体数：10 ND：1.0 μg/g 未満

対象特定原材料由来のタンパク質含量が 10 μg/g 以上とのとき、微量を超える特定原材料が混入している可能性があるものと判断する。

10.29 器具・容器包装の規格試験結果

実施期間：令和6年7月

材質等	検体数	溶出試験 (μg/mL)	
		鉛	カドミウム
ガラス	加熱調理用器具以外	10	ND
陶磁器	加熱調理用器具以外	10	ND

総検体数：20

ND：規格基準値の 1/10 未満

規格基準　【ガラス製】　鉛：1.5 μg/mL 以下、カドミウム：0.5 μg/mL 以下（加熱調理用器具以外の容量 600 mL 未満のもの）、鉛：0.75 μg/mL 以下、カドミウム：0.25 μg/mL 以下（加熱調理用器具以外の容量 600 mL 以上 3 L 未満のもの）、【陶磁器製】　鉛：2 μg/mL 以下、カドミウム：0.5 μg/mL 以下（加熱調理用器具以外の容量 1.1 L 未満のもの）

10.30 貝毒検査結果

調査年月	品名	麻痺性貝毒	
		検体数	検査結果 (MU/g)
令和6年 4月	マガキ	7	ND
令和6年 5月	マガキ	7	ND
令和6年 6月	マガキ	2	ND ~ 2.2
令和6年 6月	イワガキ	4	ND
令和6年 7月	マガキ	5	ND
令和6年 8月	イワガキ	3	ND
令和6年 8月	アサリ	2	ND
令和6年 9月	イワガキ	2	ND
令和6年 9月	アサリ	4	ND
令和6年 10月	マガキ	5	ND
令和6年 11月	マガキ	6	ND
令和6年 12月	マガキ	5	ND
令和7年 1月	マガキ	6	ND
令和7年 2月	マガキ	6	ND
令和7年 3月	マガキ	7	ND

総検体数：71 ND：麻痺性貝毒 2.0 MU/g 以下、規制値：麻痺性貝毒 4 MU/g

10.31 家庭用品（繊維製品）の試買試験結果

実施期間：令和6年5月

区分	品名	試験項目	検体数	結果
生後24ヶ月以内の乳幼児用	よだれ掛け下着	ホルムアルデヒド	2	適
	外衣		2	適
	中衣		1	適
	帽子		1	適
	寝衣		1	適
	上記以外のもの		1	適
総検体数：10			1	適

繊維製品（有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律に基づく検査）

適の判定基準：生後24ヶ月以内の乳幼児用の基準値；A-Ao : 0.05以下，その他の基準値：75 μg/g 以下

10.32 淨水の検査結果の概要（検出された項目を記載）

検出項目	検出数／検体数	検出値 mg/L	基準値 目標値 mg/L
一般細菌	1 / 5	1.5 個/mL	100 個/mL 以下
ヒ素及びその化合物	1 / 5	0.001	0.01 以下
硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	34 / 34	0.09 ~ 2.0	10 以下
フッ素及びその化合物	11 / 29	0.09 ~ 0.23	0.8 以下
ホウ素及びその化合物	10 / 17	0.01 ~ 0.02	1.0 以下
塩素酸	7 / 46	0.09 ~ 0.85	0.6 以下
クロロホルム	6 / 46	0.001 ~ 0.002	0.06 以下
ジブロモクロロメタン	36 / 46	0.001 ~ 0.007	0.1 以下
総トリハロメタン	36 / 46	0.001 ~ 0.015	0.1 以下
トリクロロ酢酸	1 / 41	0.004	0.003 以下
ブロモジクロロメタン	26 / 46	0.001 ~ 0.004	0.03 以下
ブロモホルム	32 / 46	0.001 ~ 0.005	0.09 以下
アルミニウム及びその化合物	1 / 5	0.03	0.2 以下
ナトリウム及びその化合物	17 / 17	6.2 ~ 15	200 以下
塩化物イオン	46 / 46	6.6 ~ 18	200 以下
カルシウム、マグネシウム等(硬度)	43 / 43	8.3 ~ 66	300 以下
蒸発残留物	5 / 5	66 ~ 123	500 以下
有機物(全有機炭素(TOC)の量)	2 / 5	0.4 ~ 0.6	3 以下
pH値	5 / 5	6.8 ~ 7.1	5.8 以上 8.6 以下
残留塩素	1 / 1	0.3	1 以下
従属栄養細菌	4 / 5	1.5 ~ 100	2000 個/mL 以下(暫定)

10.33 水道原水の検査結果の概要（検出された項目を記載）

検出項目	検出数／検体数	検出値 mg/L	(参考) 浄水の基準値等(mg/L)
一般細菌	4 / 5	2.5 ~ 18 個/mL	100 個/mL 以下
大腸菌	1 / 5	1 個/100 mL	検出されないこと
硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	7 / 7	0.57 ~ 1.7	10 以下
フッ素及びその化合物	4 / 7	0.08 ~ 0.14	0.8 以下
ホウ素及びその化合物	2 / 7	0.01	1.0 以下
アルミニウム及びその化合物	1 / 5	0.05	0.2 以下
ナトリウム及びその化合物	7 / 7	7.1 ~ 15	200 以下
マンガン及びその化合物	1 / 5	0.024	0.05 以下
塩化物イオン	7 / 7	7.7 ~ 21	200 以下
カルシウム、マグネシウム等 (硬度)	7 / 7	19 ~ 50	300 以下
蒸発残留物	5 / 5	68 ~ 115	500 以下
有機物(全有機炭素(TOC)の量)	2 / 5	0.4 ~ 0.6	3 以下
pH 値	5 / 5	6.8 ~ 7.0	5.8 以上 8.6 以下
色度	1 / 5	1.6	5 度以下
濁度	3 / 5	0.1 ~ 0.7	2 度以下
遊離炭酸	5 / 5	9.0 ~ 22	20 以下
有機物等(過マンガン酸カリウム 消費量)	5 / 5	0.8 ~ 1.4	3 以下
腐食性(ランゲリア指数)	5 / 5	-2.3 ~ -2.0	-1 程度以上とし 極力 0 に近づける
ヘキサフルオロオクタンスルホン酸(PFOS) 及びヘキサ フルオロオクタン酸(PFOA)	2 / 2	0.000019~0.000021	0.00005 以下(暫定)
侵食性遊離炭酸	5 / 5	8.5 ~ 21	
チフルザミド	1 / 13	0.0005	

10.34 水道水質試験の検査項目

基 準 項 目 (51 項 目)	水質管理目標設定項目 (27 項目)
一般細菌	総トリハロメタン※1
大腸菌	トリクロロ酢酸
カドミウム及びその化合物	ブロモジクロロメタン
水銀及びその化合物	ブロモホルム
セレン及びその化合物	ホルムアルデヒド
鉛及びその化合物	亜鉛及びその化合物
ヒ素及びその化合物	アルミニウム及びその化合物
六価クロム化合物	鉄及びその化合物
亜硝酸態窒素	銅及びその化合物
シアン化物イオン及び塩化シアン	ナトリウム及びその化合物
硝酸態窒素及び亜硝酸態窒素	マンガン及びその化合物
フッ素及びその化合物	塩化物イオン
ホウ素及びその化合物	カルシウム、マグネシウム等(硬度)
四塩化炭素	蒸発残留物
1,4-ジオキサン	陰イオン界面活性剤
シス及びトランス-1,2-ジクロロエチレン	ジェオスミン
ジクロロメタン	2-メチルイソボルネオール
テトラクロロエチレン	非イオン界面活性剤
トリクロロエチレン	フェノール類
ベンゼン	有機物(全有機炭素(TOC)の量)
塩素酸	pH 値
クロロ酢酸	味
クロロホルム	臭気
ジクロロ酢酸	色度
ジブロモクロロメタン	濁度
臭素酸	
	アンチモン及びその化合物
	ウラン及びその化合物
	ニッケル及びその化合物
	1,2-ジクロロエタン
	トルエン
	フタル酸ジ(2-エチルヘキシル)
	亜塩素酸
	二酸化塩素
	ジクロロアセトニトリル
	抱水クロラール
	農薬類※2
	残留塩素
	カルシウム、マグネシウム等(硬度)
	マンガン及びその化合物
	遊離炭酸
	1,1,1-トリクロロエタン
	メチル-t-ブチルエーテル
	有機物等(過マンガン酸カリウム消費量)
	臭気強度(TON)
	蒸発残留物
	濁度
	pH 値
	腐食性(ラングリア指数)
	従属栄養細菌
	1,1-ジクロロエチレン
	アルミニウム及びその化合物
	ペ ^フ ルフルオロオクタンスルホン酸(PFOS)及びペ ^フ ルフルオロオクタン酸(PFOA)

※1 クロロホルム、ジブロモクロロメタン、ブロモジクロロメタン及びブロモホルム、各濃度の総和。

※2 農薬類には令和4年4月1日付けで115種類、平成31年4月1日付けで114種類、平成20年4月1日付けで102農薬が設定されている。

10.35 水質管理目標設定項目の農薬類（115種※）

殺虫剤	殺菌剤	除草剤
1, 3-ジクロロプロペン (D-D)	イソフェンホス	2, 2-DPA (ダラポン)
EPN	イプロベンホス (IBP)	2, 4-D (2, 4-PA), MCPA
アセフェート	イミノクタジン	アシュラム, アトラジン
アミトラズ	オキシン銅 (有機銅)	アニロホス, アラクロール
イソキサチオン	キャプタン	イップフェンカルバゾン
イソプロカルブ (MIPC)	クロロタロニル (TPN)	インダノファン
イソプロチオラン (IPT)	ジチオカルバメート系農薬	エスプロカルブ
エトフェンプロックス	ダゾメット, メタム (カーバム) 及びメチルイソチオシアネート	オキサジクロメホン
エンドスルファン (ベンゾエピン)	チウラム	カフェンストロール
オリサストロビン (殺菌)	チオファネートメチル	キノクラミン (ACN)
カズサホス	トリシクラゾール	クミルロン, グリホサート
カルタップ (殺菌, 除草)	ピロキロン	グルホシネート
カルバリル (NAC)	フルアジナム	クロメプロップ
カルボフラン (カルボスルファン代謝物)	プロシミドン	クロルニトロフェン (CNP)
クロルピリホス	プロピコナゾール	シアナジン
シアノホス (CYAP)	プロベナゾール	ジウロン (DCMU)
ジクロルボス (DDVP)	ベノミル	ジクロベニル (DBN)
ジスルホトン (エチルチオメトン)	ペンシクリン	ジクワット, ジチオビル
ジメトエート	メタラキシル	シハロホップブル
ダイアジノン	メプロニル	シマジン (CAT)
チアジニル (殺菌)		ジメタメトリン, シメトリン
チオジカルブ		ダイムロン
トリクロルホン (DEP)		チオベンカルブ
ピリダafenチオン		テフリルトリオン
フィプロニル		テルブカルブ (MBPMC)
フェニトロチオン (MEP)		トリクロピル
フェノブカルブ (BPMC)		トリフルラリン
フェリムゾン (殺菌)		ナプロバミド
フェンチオン (MPP)		パラコート, ピペロホス
フェントエート (PAP)		ピラクロニル
ブプロフェジン		ピラゾキシフェン
プロチオホス		ピラゾリネート (ピラゾレート)
ベンフラカルブ		ピリブチカルブ
ホスチアゼート		フェントラザミド
マラチオン (マラソン)		ブタクロール
メソミル		ブタミホス
メチダチオン (DMTP)		プレチラクロール
メトミノストロビン (殺菌)		プロピザミド, プロモブチド
		ベンゾビシクリン
		ベンゾフェナップ
		ベンタゾン
		ベンディメタリン
		ベンフルラリン (ベスロジン)
		ベンフレセート
		メコプロップ (MCPP)
		メトリブジン
		メフェナセット
		モリネート

※ 令和4年4月1日付けで設定された115農薬のリスト。すべての農薬が検査の対象。

10.36 水質管理目標設定項目の農薬類（102種※）

殺虫剤	殺菌剤	除草剤
1,3-ジクロロプロベン (D-D)	チウラム	シマジン (CAT)
イソキサチオン	クロロタロニル (TPN)	チオベンカルブ
ダイアジノン	イプロベンホス (IPB)	プロピザミド
フェニトロチオン (MEP)	イソフェンホス	クロルニトロフェン (CNP)
ジクロルボス (DDVP)	イプロジオン	CNP-アミノ体
フェノブカルブ (BPMC)	エトリジアゾール (エクロメゾール)	ベンタゾン
EPN	オキシン銅	2,4-ジクロロフェノキシ酢酸 (2,4-D)
カルボフラン (カルボスルファン代謝物)	キャプタン	トリクロビル
アセフェート	クロロネブ	アシュラム
クロルピリホス	<u>トルクロホスメチル</u>	ジチオピル
トリクロルホン (DEP)	フルトラニル	テルブカルブ (MBPMC)
ピリダフエンチオン	ペンシクロン	ナプロパミド
カルバリル (NAC)	メタラキシリ	ピリブチカルブ
イソプロカルブ (MIPC)	メプロニル	ブタミホス
メチダチオン (DMTP)	エディフェンホス (エジフェンホス, EDDP)	ベンスリド (SAP)
ジメトエート	ピロキロン	ベンフルラリン (ベスロジン)
エンドスルファン (エンドスルフェート, ベンゾエピン)	フサライド	ペンディメタリン
エトフェンプロックス	チオファネートメチル	メコプロップ (MCPP)
フェンチオン (MPP)	カルプロパミド	メチルダイムロン
マラソン (マラチオン)	プロシミドン	アラクロール
メソミル	ベノミル	メフェナセット
ベンフラカルブ	プロベナゾール	プレチラクロール
フェントエート (PAP)	トリシクラゾール	テニルクロール
ブプロフェジン	<u>アゾキシストロビン</u>	ブロモブチド
エチルチオメトン	イミノクタジン酢酸塩	モリネート
チオジカルブ	<u>ホセチル</u>	アニロホス
ピリプロキシフェン	ポリカーバメート	アトラジン
フィプロニル	プロピコナゾール	ダラポン
	イソプロチオラン (IPT)	ジクロベニル (DBN)
		ジクワット
		ジウロン (DCMU)
		グリホサート
		シメトリン
		ジメピペレート
		エスプロカルブ
		ダイムロン
		ビフェノックス
		ベンスルフロンメチル
		ピペロホス
		ジメタメトリン
		<u>ハロスルフロンメチル</u>
		フラザスルフロン
		<u>シデュロン</u>
		トリフルラリン
		カフェンストロール

※ 平成20年4月1日付けで設定された102農薬のリスト。

このうち、下線の農薬は水質管理目標設定項目の農薬類(115種)に含まれない農薬で検査を実施したもの。

10.37 温泉水の検査項目と試験結果（濃度範囲）

検査項目	濃度範囲	温泉の定義	療養泉の定義
泉温(℃)	19.8 ~ 28.9	25≤	25≤
湧出量(L/min)	2.9 ~ 115		
pH	6.54 ~ 9.18		
電気伝導率(S/m)	0.0143 ~ 2.30		
ラドン(Bq/kg)	7.9 ~ 1580	74≤	111≤
蒸発残留物(g/kg)	0.084 ~ 15.36		
リチウムイオン(mg/kg)	< 0.1 ~ 0.79	1≤	
ナトリウムイオン(mg/kg)	11.9 ~ 2300		
アンモニウムイオン(mg/kg)	< 0.1		
カリウムイオン(mg/kg)	0.24 ~ 18.7		
マグネシウムイオン(mg/kg)	< 0.1 ~ 237		
カルシウムイオン(mg/kg)	2.19 ~ 2890		
ストロンチウムイオン(mg/kg)	< 0.1 ~ 37.0	10≤	
バリウムイオン(mg/kg)	< 0.1 ~ 0.23	5≤	
アルミニウムイオン(mg/kg)	< 0.1 ~ 0.37		
マンガン(Ⅱ)イオン(mg/kg)	< 0.1 ~ 1.00	10≤	
総鉄イオン(Fe ²⁺ +Fe ³⁺)(mg/kg)	< 0.1 ~ 4.54	10≤	20≤
ふつ化物イオン(mg/kg)	< 0.1 ~ 10.6	2≤	
塩化物イオン(mg/kg)	4.03 ~ 7640		
臭化物イオン(mg/kg)	< 0.1 ~ 30.2	5≤	
よう化物イオン(mg/kg)	< 0.1	1≤	10≤
硫酸イオン(mg/kg)	2.64 ~ 866		
炭酸水素イオン(mg/kg)	12.6 ~ 426	340≤ (炭酸水素ナトリウムとして)	
メタケイ酸(mg/kg)	23.4 ~ 71.8	50≤	
メタほう酸(mg/kg)	< 0.1 ~ 9.81	5≤	
メタ亜ひ酸(mg/kg)	< 0.1 ~ 0.33	1≤	
溶存物質(ガス性のものを除く)(g/kg)	0.138 ~ 13.4	1≤	1≤
遊離二酸化炭素(遊離炭酸)(mg/kg)	0.12 ~ 101	250≤	1,000≤
総硫黄(S)[HS ⁻ +S ₂ O ₃ ²⁻ +H ₂ S]に対応するもの](mg/kg)	< 0.1 ~ 0.15	1≤	2≤
成分総計(g/kg)	0.143 ~ 13.4		
総ひ素(mg/kg)	< 0.02 ~ 0.06		
総水銀(mg/kg)	< 0.00005		
銅(mg/kg)	< 0.01		
亜鉛(mg/kg)	< 0.01 ~ 0.19		
鉛(mg/kg)	< 0.01		
カドミウム(mg/kg)	< 0.01		

兵庫県立健康科学研究所業務年報

令和 7 年度（2025 年度）

発 行 令和 7 年 11 月 14 日

発行者 今 井 雅 尚

発行所 兵庫県立健康科学研究所

加古川市神野町神野 1819 番地の 14

TEL : 079-440-9090 FAX : 079-438-5570

URL : <https://web.pref.hyogo.lg.jp/iphhs01/top01.html>

